

V 土曜日の教育支援活動 の実践事例

V 土曜日の教育支援活動の実践事例・・・・・・・・・・ 151

◆平成26年度土曜日の教育支援活動一覧	・・・・・・・・ 151
◇長浜市	・・・・・・・・ 152
◇草津市	・・・・・・・・ 171
◇甲賀市	・・・・・・・・ 181
◇野洲市	・・・・・・・・ 192
◇湖南市	・・・・・・・・ 200
◇東近江市	・・・・・・・・ 210
◇竜王町	・・・・・・・・ 221
◇多賀町	・・・・・・・・ 228

H26土曜日の教育支援事業一覧表

No	市町名	活動名	開催場所	委託	委託団体名
1	長浜市	長浜小学校区土曜学び座	長浜公民館		
		長浜北小学校区土曜学び座	養蚕の館		
		神照小学校区土曜学び座	神照公民館		
		南郷里小学校区土曜学び座	南郷里公民館		
		北郷里小学校区	北郷里公民館		
		長浜南小学校区土曜学び座	西黒田・六荘・神田公民館	○	長浜南土曜学び座協議会
		びわ地区土曜学び座	びわ公民館		
		湯田地区土曜学び座	湯田公民館		
		田根地区土曜学び座	田根公民館		
		下草野地区土曜学び座	下草野公民館		
		上草野地区	上草野公民館		
		七尾地区土曜学び座	七尾公民館		
		湖北地区土曜学び座	湖北公民館	○	特定非営利活動法人 学びの里湖北
		虎姫地区土曜学び座	虎姫公民館		
		高月地区土曜学び座	高月公民館	○	高月地域づくり協議会
		木之本地区土曜学び座	公立木之本公民館		
		余呉地区土曜学び座	余呉文化ホール		
		西浅井地区土曜学び座	西浅井公民館	○	西浅井地区地域づくり協議会
2	草津市	英語教室	草津市立人権センター 市民交流プラザ	○	株式会社 学研エデュケーショナル
		絵画教室			
		タブレット教室			
		環境学習			
		作文教室1			
		作文教室2			
		作文教室3			
3	甲賀市	作文教室4			
		歴史教室			
		水口中央公民館親子ふれあい講座	水口中央公民館		
		水口中央公民館子ども公民館講座	水口中央公民館		
		土山中央公民館親子ふれあい講座	土山中央公民館		
		土山中央公民館子ども公民館講座	土山中央公民館		
		KOKA楽こども公民館「甲賀★忍者隊」	かふか生涯学習館		
		KOKA楽こども公民館「こども天文クラブ」	かふか生涯学習館		
		親子・家族のわくわく講座	甲南公民館		
		子ども体験講座	甲南公民館		
4	野洲市	遊学舎 親子体験学習	信楽中央公民館		
		遊学舎 物づくり夢工房	信楽中央公民館		
		野洲学区わくわく子どもクラブ	コミュニティセンターやす	○	野洲市地域教育協議会
		三上楽しいクラブ活動	コミュニティセンターみかみ		
		野洲市 ぎおう子ども教室	コミュニティセンターぎおう		
		篠原地域子ども教室	コミュニティセンターしのはら		
		北野っ子フレンドリークラブ	コミュニティセンターきたの		
		中主地域子ども教室	コミュニティセンターなかさと		
5	湖南市	野洲市地域子ども教室 兵主学区	コミュニティセンターひょうず		
		いしべっ子土曜教室	石部小学校		
		ひがしっこ教室	三雲東小学校		
		岩根小土曜教室	岩根小学校		
		菩提寺学区土曜日事業	菩提寺小		
		菩提寺学区土曜日事業	菩提寺北小		
		しもしょう サマースクール 2014	下田小学校		
		宿題応援隊	水戸小学校		
		甲西北中学校土曜日事業	甲西北中学校		
		日枝中学校土曜日事業	日枝中学校		
6	東近江市	そろばんクラブ	蒲生コミュニティセンター	○	蒲生地区地域教育協議会
		くらふと☆デコ			
		蒲生野太鼓わらべ組			
		マックスダンス(初級)			
		マックスダンス(中級)			
		ITキッズクラブ			
		KIDS FLOWER			
		陶芸クラブ			
		手話キッズ			
7	竜王町	囲碁・将棋クラブ			
		和太鼓クラブ	竜王町公民館		
		絵画クラブ	竜王町公民館		
		宇宙科学クラブ	竜王町公民館		
		チャレンジクラブ	竜王町公民館		
		パソコンクラブ	竜王町公民館		
		吹奏楽教室	竜王町公民館		
8	多賀町	土曜講座(サタスタ)	あけぼのパーク多賀	○	(株)ケイ・エム・ジーコーポレーション
		子ども陶芸教室	多賀町中央公民館		

■ 長浜市における「土曜学び座」の取組

■ めざす姿

近年、子どもを取り巻く生活環境が大きく変化する中、未来を担う子どもたちを健やかに育むために、学校、家庭及び地域住民がそれぞれの役割と責任を自覚しつつ、地域全体で教育に取り組む体制を築くことにより、子どもたちの生きる力を培うことを目指している。

■ 本年度の活動

地域の豊富な社会体験を持つ外部人材の両方を活用し、社会全体の地域教育力の向上を図った。また、公民館相互の連携を深めることで土曜日の事業に取り組みやすくするとともに、より質の高い事業を実施した。特に、地域の多様な経験や技能を持つ人材・企業等の豊かな社会資源を活用して、土曜日に体系的・継続的な学習プログラムを企画・運営した。

■ 本年度の成果

地域の多様な経験や技能を持つ人材・企業等の豊かな社会資源を活用することを念頭に入れて講座を企画・運営することにより、参加者、講師、ボランティアスタッフ等、事業に関わる人が増えている。その結果、地域において大人と子どもの関わりや交流の機会も増え、地域で子どもを育む体制が形成されている。

また、様々な体験活動を通じた異年齢同士の交流を深めることにより、子どもたちは基本的な社会性を身につけることができ、子どもたちの生きる力が育まれている。

■ 今後の課題

「土曜学び座コーディネーター」を採用しているが、市内20館という多数の公民館に対応しながら、社会教育に精通し、学校の教育課程も理解している必要があり、なかなか厳しい職務である。公民館同士が連携しながら、今後も地域のニーズを反映した様々な体験活動をねらいとする講座を企画・運営する必要がある。



【市内公民館合同事業での活動風景】



【市内公民館合同事業での展示】

■ 自然や地域の人々とのふれあい体験の場「土曜学び座」

■ 長浜市	
■ 活動名	
土曜学び座 長浜小学校区	
年間開催日数	28日

コーディネーター数	1人
土曜教育推進員数	2人
子どもの平均参加人数	39人

■ 活動の概要

- ・ 小学校の週休二日制に伴う「子どもの居場所づくり」
- ・ 地域ボランティアや各種団体、機関、高等教育機関などと連携しながら、指導講師のもと月2～3回、多岐にわたる体験学習講座を実施

■ 特徴的な活動内容

- ・ 地域のボランティアの方の協力を得るなど、地域とのリンケージによる講座の開催
- ・ みそづくりや焼いもづくり、そば打ち体験、飯ごう炊さん、座禅など、非日常体験学習の実施
- ・ 地元の長浜バイオ大学や長浜農業高校での学習体験や、地元高校生の協力による講座の開催
- ・ 小学校PTA祭り、地元長浜まちなかフェスタへの出前講座の開催



【冬に仕込んだみその熟成を待ち、9月に仕上げ（味噌すり・試食）】



【火おこし体験の後、焼いもづくり】

■ 実施に当たっての工夫

- ・ 他の公民館の実施事例を参考とし、新しい内容による講座の検討
- ・ ジャンルが偏らないよう、さまざまな社会体験ができるよう、内容を検討

■ 事業の成果

- ・ 学校や家庭では得られない知識や技能、体験、社会性を身につけ、協調性や自立心を養うことができた。
- ・ 地域の人の参加により、世代間交流を図ることができた。
- ・ 自由にグループを作ることで、異年齢間における交流ができた。

■ 事業実施上の課題

- ・ 参加人数の重視や、リスクを回避するあまり、屋内型の「ものづくり講座」に偏重する傾向にある。
- ・ 男の子が少ないなど、参加者が固定化する傾向にある。
- ・ 予算の減少により、遠隔地などでの自然体験学習が実施できない。
- ・ 他地域での事例研修や情報提供がなく、新たな講座の開催へとつながらない。

■ その他

- ・ 土曜授業が実施される中、「土曜学び座」の再検証が必要である。

■「土曜学び座」は身近な地域における社会教育の場

■ 長浜市	
■ 活動名	
土曜学び座 長浜北小学校区	
年間開催日数	25日

コーディネーター数	1人
土曜教育推進員数	2人
子どもの平均参加人数	30人

■ 活動の概要

「囲碁教室」と「リズムダンス」は毎月定期的に行い、専門的な技術も身に付けられることをねらっている。この2つを軸として、その他に「もの作り」や「体験」といった、実際に子供達が体を使って経験の出来る事を中心に色々な場を作っている。

■ 特徴的な活動内容

- ・月1で行っている「リズムダンス」3B体操の要素を取り入れて、いろんな音楽に合わせてのダンスや基本的なストレッチ・柔軟体操も取り入れ、子供達の基礎体力アップにつながるような運動を行っている。
- ・「蚕の里まつり」でダンスの発表の場を設け、子供達が自身の技術力アップや人に見せるという意識をもち、いつもしている事へのマンネリ化を防ぐためにも、緊張感のある場の経験を積むことが出来るようにしている。
- ・今年で、3年目になるが参加者も年々増えている。

「地球温暖化を考えよう」

実際どうして温暖化になるのか、という話のときには、低学年の子供には少し難しかったが、エコ買い物やゲームで説明をされると、楽しく参加して理解できたようだった。

後半は、質問された事に積極的に手を挙げて答えていたので、楽しく理解してくれたと思う。



■ 実施に当たっての工夫

出来る限り、子供達が実際に体験できる事を実施する。
地域の子どもの興味関心を惹くようなプログラムの企画立案を心がける。
伝統的な文化を引き継ぎ、その力を身につける講座を検討する。
滋賀県地球温暖化防止活動推進委員を講師として環境学習に取り組む。

■ 事業の成果

物作り・体験と言った教室にはいつも50人を超す参加者がある。
マジック教室は大変人気があり、80名以上の参加があった。
子ども囲碁教室では講師の指導により、技能が高められている。

■ 事業実施上の課題

どうしても5・6年生の高学年の参加者が極端に少ない。高学年の子供も興味をもってくれて、低学年の子供も一緒に出来る教室を考えていきたい。

小学校と連携した活動についてさらに検討する必要がある。

■ その他

平均すると女の子の参加者の方が多いので、もう少し男の子が興味を持ってくれるような事を考えていきたい。保護者の参加がほとんどないので、もう少し子供達と一緒に参加してほしい。

■ 地域の絆ではぐくむ「土曜学び座」

■ 長浜市	
■ 活動名	
土曜学び座 神照小学校区	
年間開催日数	14日

コーディネーター数	1人
土曜教育推進員数	2人
子どもの平均参加人数	22人

■ 活動の概要

地区青少年育成会議との共同開催により、野外での体験学習に力を入れている。
その他、地域ボランティアの方や各種団体の方に講師を依頼して講座を開催している。

■ 特徴的な活動内容

【田植え～しめ縄まで】

5月に田植え、10月に稲刈りを行った。12月は例年、しめ縄づくりを実施している。また今年度は、さつまいも植え、落花生植えを実施した。田んぼ、畑の作業を通じて、自然の良さや大切さ、不思議さを体験してもらえたと思う。

【デイキャンプ】

10月に高島市のヴィラデスト今津でデイキャンプを実施した。バスを使ってキャンプ場まで行ったが、2時間近くかかりまた細い道で大変だった。しかしキャンプ場はとても見晴らしの良いところで、参加者は、飯盒炊はんや焼き芋、アスレチック等を体験した。また、キャンプ場から琵琶湖を望み、自分たちが住んでいる長浜市の位置についても勉強することができた。大変良い研修となった。



【 田植え 】



【 デイキャンプ 】

【親子のつどい】

8月に地区青少年育成会議・地区民生委員児童委員協議会及び長浜市スポーツコミュニティクラブとの共同開催により、神照小学校体育館でニュースポーツを楽しんだ。暑い夏の体育館ということで環境的に心配したが、楽しく過ごすことができた。参加は保護者同伴で募った。昼食は地元ボランティアの方々のご協力をいただき、おいしいカレーをつくってもらった。参加者に大変好評だった。

■ 実施に当たっての工夫

子供が楽しみながら、新しい発見ができる環境を増やす。
親子での参加の機会を増やし、親子のコミュニケーションの場としてもらう。
性別にかかわらず、参加できる機会を増やす。

■ 事業の成果

参加いただいた子どもの成長を通じて、保護者、地域ボランティア等のきずなができていると感じている。
青少年育成団体や地域の青少年育成ボランティアグループとの活動連携により、子どもを地域全体で育てていこうとする雰囲気ができている。

■ 事業実施上の課題

充実した事業を実施するためには地域ボランティアの方の確保が必要。
リピーターが多い。初めての子供でも参加しやすくなるための工夫を考える必要がある。

■ 地域交流のきっかけは「土曜学び座」から始まります。

■ 長浜市	
■ 活動名	土曜学び座 南郷里小学校区
年間開催日数	18日

コーディネーター数	1人
土曜教育推進員数	2人
子どもの平均参加人数	26人

■ 活動の概要

工作、軽スポーツ、調理、自主学习など

■ 特徴的な活動内容

夏休み期間中に「まなびのひろば」として自主学習の場を設けた。6日間で延べ131名の参加者があり、高学年の参加も通常の講座よりは多く、いつもと違う顔も見られた。地域づくり協議会や地域の元教員、大学生などの協力を得て、宿題や自主学習に取り組んだ。学習以外にも運動遊びや工作、調理などの体験も取り入れた。

■ 実施に当たっての工夫

できるだけ地域の方に講師をお願いするようにし、交流の場となるよう考えている。

■ 事業の成果

学校でも縦割り活動などはあるが、異学年の交流の場になっている。兄弟で参加していて、上の子が下の子の面倒を見るなど微笑ましい場面も見ることができる。

また、「伝承遊び」や「わらべうた」「手遊び」などを子どもたちに伝えたいので、学び座で計画してほしいと言ってくださったり、看板業の社長から廃材(シール)を頂いたり、地域の方から声掛けをしてくださることがあり、大変ありがたく思う。また、健康推進員や民生児童委員などの協力もあり、地域に「学び座」が定着していると感じる。

■ 事業実施上の課題

保護者の方にも参加してほしいのだが、難しい。特にスポーツ推進員の指導で行うビーチバレーや大縄跳びなどは、地域にスポーツを広めるきっかけ作りにしたいという考えもあるのだが、これまでに保護者の参加はない状況である。

また、参加者が開始時間ぎりぎりに来ることが多く、予定表や口頭で注意を呼びかけているが改善されない。

■ その他

お手伝いをしてくださるボランティアの方がおり、大変ありがたく思う。

学び座卒業生で10代から20代の若者がスタッフとして参加できるようつながりを作りたい。



【廃材のシールで「はり絵」を作成】



【「まなびのひろば」で自主学习】

■ 地域の人々や自然と交流する土曜学び座

■ 長浜市	
■ 活動名	
土曜学び座 北郷里小学校区	
年間開催日数	18日

コーディネーター数	1人
土曜教育推進員数	2人
子どもの平均参加人数	15人

■ 活動の概要

学び座を通して週末の居場所づくり、大人とのふれあいの場、体験活動の充実等、子どもたちの健全育成や地域教育力の向上等を目指し、主に、調理や工作、スポーツや野外での体験活動、伝統的な体験活動等を行っている。そのため、講師は公民館との連携から、北郷里地区の方や市内ボランティアサークル、趣味の講座等各方面で活躍されている方をお願いしている。

■ 特徴的な活動内容

- ・「三世代交流もちつき大会」、「北郷里一長〜い太巻きずし作り」
：どちらも長年行われてきた北郷里地域の風物詩。北郷里地区の三世代が集まり三世代間や地域間の交流を目的として行う。地域の幼稚園児からご年配の方まで幅広い世代がもちつきや太巻きずし作りを通してふれあうことができる。
- ・「おばけやしきをつくろう！」
：上記講座に加え、夏の恒例事業になりつつある。平成26年度で4回目となる。劇団を講師に迎え、小学生を対象に開催している。公民館の中におばけやしきを作り、参加者がおばけに扮してお客を驚かすといった内容で、徐々に参加者やお客が増えつつある。

■ 実施に当たっての工夫

- ・各事業で安全面に配慮し、その上で、子供たちはもちろん大人も興味を持つような内容になるよう工夫している。
- ・工作や料理に関しては、過去数年間の学び座の内容と、小学校で「ハッピータイム」という取り組みがあるのでそこでの内容とかならないようにしている。
- ・開催には地域の各種団体やボランティアスタッフと連携を図り、支援をいただきながら実施している。

■ 事業の成果

- ・全体を通して、前年に比べ各事業で応募者や参加者が増加している。
- ・太巻きずし作りに関しては、毎年長さの記録を更新しており、参加者の意欲を高めることにつながっている。

■ 事業実施上の課題

- ・事業内容を「参加したい」と思うものにし、参加者を増やしていくこと。
- ・小学1年生から6年生が一緒になって同じ内容の事業に取り組むので、理解力や体力面での差が出てしまうのがどんな内容をするにしても課題となる。1年生でもできることで、6年生にも面白味があるものを毎回企画するのが、関係者一同頭を悩ませる部分である。
- ・開催時のスタッフ不足。「土曜学び座」を地域の各種団体をさらに巻き込んだ事業にすること。

■ その他

「特徴的な活動内容」でも上述したが、北郷里地区で長く続いている事業がある。それは、地域住民の方々が、その事業を大事に思い、続ける意志を持って取り組んできたからであり、その意志を次世代が継いできたからであると感じている。



【「おもしろ実験で学ぼう！科学講座」の様子】



【「おばけやしきをつくろう！
～みんなでつくる物語～」の様子】

■ 地域で育て、ふれあい、見守る「土曜学び座」

■ 長浜市	
■ 活動名	
土曜学び座 長浜南小学校区	
年間開催日数	17日

コーディネーター数	1人
土曜教育推進員数	2人
子どもの平均参加人数	23人

■ 活動の概要

長浜南小学校区に3つの公民館がある為、それぞれの地域の特色を生かした活動。企画や運営は三館が協力し、地域の行事と重ね合わせながら年間を通じ、多彩な活動内容となっている。

■ 特徴的な活動内容

西黒田地区に伝わる金太郎伝説から「金太郎相撲大会」や、地域の伝承遊びに触れる「カロム大会」、また、地産地消を学ぶ「そば打ち体験」などの活動に取り組んでいる。



【「そば打ち体験」】



【「金太郎相撲大会」】

■ 実施に当たっての工夫

- ・地域の機関(地域づくり協議会など)と連携を取り、これらの主催する行事と合同で開催するなどして、地域で子どもを見守り育てるという意識を高めている。
- ・マンネリ化しないように、他の公民館の実施講座を参考にし、新しい内容の講座を取り入れている。

■ 事業の成果

- ・挨拶や、靴を揃えて脱ぐことの声掛けにより、社会性や協調性を養うことが出来るようになってきた。
- ・異年齢のグループ分けにより、高学年が低学年の面倒を見られるようになってきた。
- ・地域のイベントへの参加で、世代間交流を図ることができた。

■ 事業実施上の課題

- ・2年生以上になると、スポーツ少年団に加入する子どもが多くなるため、学び座の参加者の割合は低学年が多く、男子の参加も少ない。どの講座も、参加者数は、年々減少傾向にある。
- ・ものづくりの講座だと参加者は集まるが、自然体験の講座になるとなかなか参加者が増えない。

■ その他

市内の他学区の公民館との情報の共有・交換により、事業内容の充実をはかっている。

■ 異年齢児童の活動の場であり、大学生、社会人との交流の場。“土曜学び座”

■ 長浜市	
■ 活動名	土曜学び座 びわ北・びわ南小学校区
年間開催日数	17日

コーディネーター数	1人
土曜教育推進員数	2人
子どもの平均参加人数	16人

■ 活動の概要

毎月1回から2回、工作、調理から軽スポーツ等、講師指導の下で2時間活動する。
地域の方を講師に招き、地域連携プログラムの一つとしている。

■ 特徴的な活動内容

土曜学び座として10月 4回実行 チアリーダーを計画、文化祭にて踊り、ステージを盛り上げる。
音楽にあわせて、2本の縄をつかってとぶ縄とびダブルダッチ文化祭に再度行う。

読書サークルによる読み聞かせ教室
七夕さかさざりの折り方教室
おもしろ科学実験教室
マジック教室
おりがみ教室
新春お楽しみ会とコロケパーガー

ブラコップのキーホルダー
トマトのキーマカレーとミックスジュース
オリジナルフォトフレームをつくろう
お菓子づくり教室
ネイチャークラフト教室

■ 実施に当たっての工夫

学校行事、地域の行事が重ならないにしている。
地域講師による伝統文化を継承する活動を行っている。

■ 事業の成果

ものづくりや調理では仕上げる喜び達成感が感じられ、特に大学生の講座では一体感が醸成されており、子ども達の自立心の確立にも寄与している。

読書活動を通して、地域の子ども達の生活の中に読書の習慣が生まれている。
子ども達の活動が地域の文化祭の盛り上げに役立っている。

■ 事業実施上の課題

最近、土曜学び座、人が集まらない傾向になって来ている。内容のマンネリ化を防ぎ、他の公民館との情報のやりとりをし、考えていきたい。

土曜日に地域の小中学校が授業をされる場合、講師との日程調整が難しくなる。
学び座に参加する子どもと地域の大人との交流活動をさらに深めていく必要がある。



【ダブルダッチであそぼう！】



【文化祭参加 (チアリーダー)】

■ 「土曜学び座」は、ふれあい校外学習の場

■ 長浜市	
■ 活動名	
土曜学び座 湯田小学校区	
年間開催日数	11日

コーディネーター数	1人
土曜教育推進員数	2人
子どもの平均参加人数	15人

■ 活動の概要

学校完全週5日制に対応して、子どもたちの身近な地域での「学びの場・体験の場」の構築を目的に始まったのが、土曜学び座です。講座の内容は、「囲碁・将棋教室」「工作教室」「料理教室」「スポーツ体験」「環境学習」「科学体験」などさまざまです。これらの教室は、地域のさまざまな分野に卓越した方々に講師になっていただき実施しており、子どもたちには、学校や家庭では学べない体験ができると思います。

■ 特徴的な活動内容

5月	フォトスタンドづくり	11月	キャップで、電電太鼓
6月	キッズダンス		マグネットクリップ
7月	夏休み宿題工作教室	12月	LEDで行灯工作教室
10月	アイロンビーズ	1月	ひな人形づくり
		2月	英語で遊ぼう



【キッズダンス】



【アイロンビーズ】

■ 実施に当たっての工夫

子ども達が交流できる講座や、楽しんでもできる物づくりの講座等、さまざまなジャンルの講座づくりを心掛けている。英語活動講座等のプログラムで地域の学校との連携を図っている。特にものづくりに関わる内容は地域の子どもの興味関心が高く、充実を図っている。

■ 事業の成果

異年齢との交流や、学校とは一味違う体験の場を提供できた。
LEDを使って科学の基礎的な興味関心を高めることができた。

■ 事業実施上の課題

参加人数が少ない講座もあり、いろいろな子ども達に参加してもらえるような講座を開催したい。
市内公民館相互で講座内容についての情報交流を行っているが、各地域の規模の違いもあり、地域の実情に合わせた企画の検討が必要である。

材料費が次第に上がってきており、講座を企画する上での課題となっている。

■ 地域で学ぼう！仲間と遊ぼう！田根っ子「土曜学び座」

■ 長浜市	
■ 活動名	
土曜学び座 田根小学校区	
年間開催日数	15日

コーディネーター数	1人
土曜教育推進員数	2人
子どもの平均参加人数	13人

■ 活動の概要

原則土曜日の午前中に開催。スポーツ少年団や習い事等に通っていない児童が受講することで、学校以外の学びや体験を通じた青少年健全育成を行う。

■ 特徴的な活動内容

地域づくり協議会や健康推進協議会等の身近な地域団体と共催・連携し事業を開催。また、地域の方による趣味等を生かした事業の開催。

- ・荷造り用のナイロン紐を使ったり、また包装紙やペットボトルキャップを利用したエコを学習しながら工作を楽しむ講座の開催。
- ・地元の絵の先生に来てもらって、夏休みの宿題にも役立つ下書した画用紙を持って来てそれに絵具やポスターカラーで仕上げる「色ぬり教室」の開催。
- ・地元の地域づくり協議会との共催でビンゴゲームを楽しんだ後に、地域のみなさんと一緒におしゃべりタイムとおはぎで会食といった講座の開催。

■ 実施に当たっての工夫

実施する事業（物づくり等）の中に「英語で遊ぼう＆～工作」と題して、簡単な英会話を取り入れて事業に変化をつけ実施。また、事業の一部を小学校の地域の人とふれあう中休み時間を利用して「学び座出前講座」として実施。

■ 事業の成果

全校児童70名の中で公民館での講座は平均6～7人で、出前講座では20～50人近くの参加者がありよい成果であった。また、さまざまな内容で事業を実施することができ、参加の児童・保護者には好評であった。

■ 事業実施上の課題

今後は、さらに事業の内容を吟味し、よりよい内容の企画で実施し、高学年の児童にも多く参加してもらうようにすることが課題である。

浅井地域全体での講座の検討。

■ その他

土曜日に学校の授業が実施されるようになれば、この時間帯に実施している学び座も検討していく必要がある。



【段ボールの筒の廃棄部分を利用した小物入れ作り】



【荷造り紐を利用したトンボ】



【ペットボトルキャップを利用したでんでん太鼓】

■ 地域で育てる 下草野の土曜学び座

■ 長浜市	
■ 活動名	
下草野公民館土曜学び座 浅井小学校区	
年間開催日数	41日

コーディネーター数	1人
土曜教育推進員数	2人
子どもの平均参加人数	17人

■ 活動の概要

学校完全週5日制に対応して、子ども達の身近な地域での「学びの場・体験の場」の構築、また、教室を通じて青少年の健全な育成を図ることを目的とする“土曜学び座”講座を各公民館で開催している。

講座の内容は、「料理教室」「スポーツ体験」「環境学習」「科学体験」「自主学習教室」などさまざまです。

これらの教室は、地域のさまざまな分野に卓越した方々に講師になっていただき実施しており、子どもたちには、学校や家庭で学べない体験ができるよう、創意工夫しながら、実施しています。

■ 特徴的な活動内容

6月 下草野はたるまつり in カラオケ大会

7月 トランポリン運動教室・

おもしろ科学実験教室「スライムをつくろう」

読書感想文書き方教室2回講座

10月 大阪ガスの考える防災教室とサバイバルクッキング教室

11月 こどもフリーマーケット（ふれすく合同）

12月 クリスマスコンサート in 下草野公民館（ふれすく合同）
キッズ書道教室

＜あざいふれすく2＞

年間を通して参加する講座で、子どもが中心となり、活動しています。毎回、楽しみにしてくれ、スキルアップをしています。また浅井地区全体の小、中学校対象の為、学区間、異年齢の子ども達同士のふれあいの場になっています。

将棋教室 年8回、 陶芸教室 年11回、 ニュースポーツ教室 年8回、 フットサル教室 月2回、 ギター&ベースレッスン 年7回
万華鏡製作 年4回、 イラスト倶楽部 年9回



■ 実施に当たっての工夫

学校とも連携を取り、なるべく行事のない日に実施している。

来てくれた子どもたちに興味のあることを聞くことにより、子どもたちの目にとどまる講座を考えるヒントにもなる。

■ 事業の成果

子ども達との交流やいろんな体験の場、地域の方とのふれあいの場を提供できてよかった。

土曜学び座も定着してきて、次は、何をするの？と楽しみにしてくれている。

■ 事業実施上の課題

講座の内容によって、参加人数がかたよるのが、今後の課題である。

■ その他

今後も子どもたちが興味を持つような講座・役立つ講座を考え、子どもたちが参加してよかった！！と思ってもらえるよう頑張っていきたい。

■ 「土曜学び座」は子ども達のわくわく体験の場所

■ 長浜市	
■ 活動名	
土曜学び座 浅井小学校区	
年間開催日数	9日

コーディネーター数	1人
土曜教育推進員数	2人
子どもの平均参加人数	13人

■ 活動の概要

平成14年11月から、学校完全週5日制に対応して、子ども達の身近な地域での「学びの場・体験の場」の構築を目的に始めました。講座の内容は「工作」「料理」「スポーツ」「科学」「環境」とさまざまです。地域とのふれあいを大事にし、子ども達には、学校では学べない体験・発見をして欲しいと考える。

■ 特徴的な活動内容

- 5月 アイロンビーズを作ろう！
- 6月 マグネットクリップ
- 7月 プラコップ・コースター
トランポリン運動教室（下草野・プレスク・上草野合同）
- 9月 グラスデコ
- 10月 大阪ガスの考える防災教室とサバイバルクッキング教室（下草野・上草野合同）
- 11月 プレッツェルを作ろう！



【トランポリン協会・滋賀県立大トランポリン部の学生さん
・地域の方の協力で開催】



【大阪ガスの考える防災教室】

■ 実施に当たっての工夫

- ・円滑に進むよう前もって準備をし、時間内に終われるように行っている。
- ・子ども達の楽しめるよう講座の中で、どんなことがしたいかを聞いている。

■ 事業の成果

- ・運動教室・工作教室・料理教室など学校、家庭ではなかなか体験できないことができ、子どもの好奇心を伸ばすことができた。
- ・防災教室は、子どもが防災について関心をもてたと感じた。

■ 事業実施上の課題

- ・講座内容によって参加人数がかたよるのが今後の課題である。
- ・子ども達が興味をもって参加できるようにしたい。

■ その他

- ・子ども達の笑顔が絶えない場所でありたいと思う。

■ 土曜学び座ふれあい講座

■ 長浜市	
■ 活動名	
土曜学び座 七尾小学校区	
年間開催日数	11日

コーディネーター数	1人
土曜教育推進員数	2人
子どもの平均参加人数	11人

■ 活動の概要

平成14年11月から、学校完全週5日制に対応して、子どもたちの身近な地域での「学びの場・体験の場」の構築を目的に始めました。

講座の内容は、「囲碁・将棋教室」「工作教室」「料理教室」「スポーツ体験」「環境学習」「科学体験」などさまざまです。これらの教室は、地域のさまざまな分野に卓越した方々に講師になっていただき実施しており、子どもたちには、学校や家庭では学べない体験ができると思います。

■ 特徴的な活動内容

5月	アイロンビーズ	10月	バルーンアート
6月	ジャガイモで料理をしよう	11月	でんでんたいこでストラップを作ろう
7月	キッズダンス	12月	クリスマスケーキを作ろう
8月	色ぬり教室	1月	グラスデコをしよう
	マグネットクリップ	2月	キッズダンス
			英語で遊ぼう



【アイロンビーズ】



【マグネットクリップ】

■ 実施に当たっての工夫

学校行事や地域での行事と重ならないようにしている。
旧町内の公民館との情報交換により、事業内容の充実を図っている。

■ 事業の成果

他学年との交流や、さまざまな体験の場を提供できてよかった。

■ 事業実施上の課題

土曜学び座は定着しているが、講座内容によって参加人数が偏るのが今後の課題である。

■ 「土曜学び座」 まなび・ふれあい・つながり

■ 長浜市	
■ 活動名	
土曜学び座 湖北公民館	
年間開催日数	36日

コーディネーター数	1人
土曜教育推進員数	2人
子どもの平均参加人数	35人

■ 活動の概要

子どもたちの週末の居場所づくりとして、創作・体験活動の充実。
地域の大人と子どもがふれあう機会がもてる活動。

■ 特徴的な活動内容

湖北町には、中世三大城のひとつで、日本五大山城といわれる小谷城跡がある。そこで、今年は子どもたちに小谷城の歴史を知ってもらうために取り組んだ。こういった、地域に関する事を取り入れた活動ができるようにしている。

また、居場所づくりの推進で、公民館教室（自主事業）「造形あそび教室」・「将棋教室」を開講している。



【よろちゃん会と大道芸を楽しもう】



【クリスマスボード作り】

■ 実施に当たっての工夫

少しでも多くの子どもたちが参加してくれるよう、内容の充実を図った。また、メディアでもよく言われている子どもたちの理科ばなれが、軽減するよう実験教室をおこなった。

■ 事業の成果

交流の少ない3校が、いろいろな体験を通して交流することができた。

異年齢グループを作ることにより、高学年が低学年を指導する姿がみられた。また、同学年グループでは、わからない子のサポートをしている姿もみられた。

学び座のなかで、地域の方を講師に迎えることがあり、地域の人との関わりを持つことができた。

■ 事業実施上の課題

湖北はスポーツ少年団の加入率が高いため、学び座の参加者は低学年がとて多く、子どもが固定化している。

運動など、からだをつかう講座では、参加率が極端にさがる。

学区による、参加率の偏りがある。

■ その他

安全管理については、保護者の方の協力を得ておこなっている。また、緊急時の対応もできるよう職員に周知している。

■ 土曜学び座 学びのステーション

■ 長浜市	
■ 活動名	
土曜学び座 虎姫小学校区	
年間開催日数	15日

コーディネーター数	1人
土曜教育推進員数	2人
子どもの平均参加人数	18人

■ 活動の概要

- ・子どもたちの身近な地域での「学びの場・体験の場」として、様々な体験学習を企画し開催している。
- ・大人も一緒に体験して楽しいと思う内容を工夫している。

■ 特徴的な活動内容

- ・子どもたちの成長過程が見れる体験学習にするため、同じ参加者が参加する3回連続講座を2講座企画した。
 - 1 ダンス教室 大学生が大勢講師として来てくれた。講座の最後には保護者の方の前で、練習の成果を見てもらい、大学生のダンスも披露してもらった。
 - 2 お菓子教室 3回を同じメンバーでやることで、子どもたちの役割分担も自然とできて協力しながらやり遂げることができた。
- ・市内のバイオ大学生に講師を依頼し、普段接する機会が少ない「少し大きいお兄さん、お姉さん」と一緒に学ぶ講座を開催した。

■ 実施に当たっての工夫

- ・季節の行事ごとを大事にしたいと考え、物づくりなどを計画するときに季節の行事に合わせた企画を考えている。
- ・料理教室などは、包丁などのケガ、やけどなど事故が無いように配慮するため、学生リーダーや地域ボランティアの方にスタッフをお願いして安全に配慮している。

■ 事業の成果

- ・連続講座とすることで、子どもたちの技量が上がるのと大人の指示が無くても後始末などできるようになった。また、子ども同士で協力して進めていく様子も見られた。
- ・ペットボトルのキャップで「でんでんだいこ」を作る活動等を通して、環境に配慮しリサイクル活動に取り組む姿勢を培った。

■ 事業実施上の課題

- ・5・6年生の参加が少ない。プログラムを工夫しているが難しいと感じる。
- ・1年生から6年生と幅広い子どもが対象なので、低学年には難しかったり、高学年には簡単すぎたりする。
- ・講師料が少ないため、依頼できない場合がある。また、無償ボランティアで来てもらうのも限界がある。実際、安全に成果のある講座をするには、子どもの扱いに慣れた講師を依頼する必要がある。ただ子どもと遊ぶだけでは無いので、講師料の予算を十分確保すべきである。
- ・地域の小学校との連携についてさらに検討する必要がある。



【3回連続お菓子づくり講座 最終回 プチシューづくり】

■ 高月公民館土曜学び座 〈土曜はみんなの宝ばこ〉さぁ公民館へ行こう！

■ 長浜市	
■ 活動名	
高月公民館 子ども教室	
年間開催日数	24日

コーディネーター数	1人
土曜教育推進員数	2人
子どもの平均参加人数	14人

■ 活動の概要

当公民館での土曜学び座は、料理・アート・日本文化の3つのクラブを設けている。年度初めに子どもたちの希望で所属クラブを決定し、各クラブ8回の講座を開催している。

■ 特徴的な活動内容

- ・ コドモズ・キッチンクラブ：子どもでもできるカンタン料理を学び、ママを安心・パパを感心させようと子どもたちの人気の料理教室に年間を通じて取り組んでいる。
- ・ きっず・アートクラブ：粘土で不思議な生き物をつくる。自分のイメージで富士山を描いたり、想像力を養うアートの楽しさ、不思議さを体験している。
- ・ こども・おけいこクラブ：古来よりお稽古事と呼ばれている、生け花・茶道・書道など日本の伝統文化にふれ、礼儀作法などもあわせて身に着けている。



【茶道で日本文化にふれました】



【大好きなハンバーグを作っています】

■ 実施に当たっての工夫

講座の講師は、当公民館でサークル活動をするクラブの皆さんなどをお願いするなど地域の人々の交流とサークル活動の活性化も期待している。

■ 事業の成果

クラブ化することで年間を通して1つのテーマに取り組むことができ、子どもたちには知識や技術の習得が深まっている。また、講座のスケジュール管理など事務の軽減も図られている。

■ 事業実施上の課題

テーマ別のクラブ化を2年実施しましたが、子どもたちは料理に人気偏る傾向があり、抽選漏れの子どもの対応が課題で来年度では課題解消の工夫をしたいと考えている。

■ 学校の垣根を越えて、みんなでワイワイ楽しく学ぶ“土曜学び座”

■ 長浜市			
■ 活動名	土曜学び座 杉野・高時・木之本・伊香具小学校区		
年間開催日数	9日		

コーディネーター数	1 人
土曜教育推進員数	2 人
子どもの平均参加人数	12 人

■ 活動の概要

- | | |
|----|-------------------------------------|
| 5月 | キッズアート「君の作るドラゴン伝説
ありがとうのフォトスタンド」 |
| 6月 | グラスデコを楽しもう |
| 7月 | キッズアート「戦うサーファー」 |
| 9月 | Let's Cooking 「パン作り」 |

- | | |
|-----|--------------------------------|
| 10月 | フラワーアレンジメントに挑戦
デコスイーツにチャレンジ |
| 11月 | Let's Cooking 「おはぎ作り」 |
| 12月 | キッズアート「クリスマスで仮装パーティー」 |



【布・紙・ダンボールなどを使って「クリスマスで仮装パーティ」】



【みんなで楽しく「おはぎ作り」】

■ 特徴的な活動内容

自由に「描く・創る・表現する」をテーマに年に3回、キッズアートグループの協力を得て実施。アートの力を借りて自分自身を大切にする心・仲間を思いやる心を育てている。

また、それとは別に紙や布・糸など自然のものを使っての小物づくり、地元の郷土料理グループによる料理教室など、体験学習も行っている。

■ 実施に当たっての工夫

毎回テーマを決め、さまざまな画材、素材を準備し子どもたちが安心して自由にアート表現出来る環境作りを心掛けている。

様々な分野に卓越した地域の方に講師になって頂けるようお願いしている。

開催日を学校の行事と重ならないように考慮している。

■ 事業の成果

高学年が低学年に優しく教えることが出来、学年・学校に関係なく仲良く出来た。

地元の人を講師に迎えることで地域の話・家族の話ができ、子どもたちも保護者も親しみを持てた。

■ 事業実施上の課題

講座の内容によって参加者の人数がたよる。また、参加者が固定化してきている。

地域でのボランティアの発掘が必要。

小学校が4校あるため、行事に重ならないよう開催日を決めるのが難しい。

子ども達は地域の宝 体験を通して成長する土曜学び座

■ 長浜市	
■ 活動名	
土曜学び座 余呉小学校区	
年間開催日数	11日

コーディネーター数	1人
土曜教育推進員数	2人
子どもの平均参加人数	26人

■ 活動の概要

5月 ペットボトルと紙ねんどでランプシェードを作ろう
 ブラコップで作っちゃおう
 6月 しゃぼん玉つくろ
 7月 飯盒でご飯を炊いてみよう
 ふうりんの音で涼しくなろう
 8月 夏のお楽しみ会

9月 切り絵に挑戦しよう
 11月 スノードームを作ってみよう
 12月 ペットボトルでクリスマスツリー
 1月 お抹茶体験（仮）
 2月 そば打ち体験

■ 特徴的な活動内容

地元の材木店から頂いた木材で飯盒炊飯をしたり、地元の竹を切ってきていただき、流しそうめんをしたりしました。
 初めて体験する子どもが多く、子ども達も親御さんも喜んでくださった。
 あと、ペットボトルを使ったりサイクル学習として、ランプシェードやツリーを作ることにより、すぐに資源ごみになってしまうのではなく、いろいろな事に使えるという事を学べたのではないかと思います。



【飯盒炊飯】



【ペットボトルツリー】

■ 実施に当たっての工夫

- ・低学年の参加が多いので、全学年通して楽しめたり、挑戦できる講座内容の計画ができた。
- ・ボランティア確保の為、民生委員児童部会の方々にもお声をかけて、お手伝いに来ていただいた。
- ・講座実現の為、青少年育成余呉地区民会議と共催で講座を開催した。

■ 事業の成果

- ・参加者も多く、楽しみにしてくれる子どもたちが多いのがとてもうれしく思う。

■ 事業実施上の課題

- ・当初計画していた運動系の講座が出来ずに、物づくりや体験に偏ってしまった。
- ・もっといろいろなジャンルの講座を計画していきたい。

「土曜学び座」は地域の子どもの笑顔が大好きです！

■ 長浜市	
■ 活動名	
土曜学び座 西浅井小学校区	
年間開催日数	19日

コーディネーター数	1人
土曜教育推進員数	2人
子どもの平均参加人数	33人

■ 活動の概要

- ・ 4月 キッズサスケ
- ・ 5月 おはなのブローチづくり、フットサル
- ・ 6月 スイーツデコ、ゲーム大会
- ・ 7月 セタささかざりとプラネタリウム
きもだめし大会とスイカわり
- ・ 8月 デイキャンプ体験
- ・ 10月 キッズサスケ
- ・ 11月 文化祭クラフト体験、フットサル
- ・ 12月 公民館へ行こう、もちつき大会、公民館クリスマス会
- ・ 1月 スイーツマグネット、鬼ごっこ大会
- ・ 2月 バレンタインチョコづくり、フットサル



【キッズサスケ ～ バランスウォーキング】



【キッズサスケ ～ 大玉相撲】

■ 特徴的な活動内容

平成25年度から実施している「キッズサスケ」、今年度は2回開催したが、どちらも参加者は多く毎回楽しみにしている子どもたちが多くいる。

頭脳と体力をつかって、いろんなゲーム、レースにチャレンジする

(内容 ～ バランスウォーキング、時限爆弾、円盤アタック、大玉相撲、フィールドフラッグ、ピンポン運び、他)

■ 実施に当たっての工夫

物作りばかりなど、実施内容が偏らないよう年間計画をたてた。

子どもたちが、のびのびと楽しめる時間であるような体験を目指した。

■ 事業の成果

今年度は全体的に参加者が増加した。運動、物作り、季節の行事、体験活動などを、バランスよく企画し実施することができた成果ではないかと思う。今後も、子どもたちが参加したいと思えるワクワクするような企画を考えていきたいと思う。

また、中・高生ボランティアが積極的に参加してくれ、異年齢交流ができた。

■ 事業実施上の課題

現在200人に満たない小学校の児童が、これから益々減少傾向にある中、参加者の確保が課題となってきた。

また、料理教室を実施する際のボランティアの確保が課題。

■ 草津市における土曜日の教育支援の取組

■ めざす姿

<子ども>

- ・ 自らの意志で目的をもって活動に参加しようとする子ども。
- ・ 興味を持って活動に参加し、自らの学力を高めようとする子ども。

<地域>

- ・ 子どもたちの安全な居場所が確保された草津市。
- ・ 学びたいという意欲をもった子どもたちが、経済的な心配をすることなく参加できる学習の場がある草津市。
- ・ 学校教育とは別に、市内小中学生の学力向上のための場がある草津市。

■ 本年度の活動

○作文教室（民間委託による指導）

○体験教室（市内の大学生・企業・市役所職員による指導）

英語教室、絵画教室、タブレット教室、環境学習教室、理科実験教室、歴史教室

○運営委員会

体験教室の事前打合せ等

○研修会（民間委託業者主催）

作文教室講師を対象とした研修

■ 本年度の成果

- ・ 市内の全小中学校より参加者が集まったこと。
- ・ 小中学生合わせた募集人員が80名のところ、65名の参加があったこと。（充足率の増加）
（小学生 39名、 中学生 26名）
- ・ 中学生の出席率が、これまでより高くなっていること。
（H25年度 60.5%、H26年度 68.4%）



■ 今後の課題

- ・ より多くの子どもたちが参加したくなる・参加しやすくなる環境の整備
（会場数、実施曜日、実施時間帯、活動内容等の検討）
- ・ 草津市における学びのセーフティネットの充実
- ・ 小中学生の学習に適した会場の確保

■ その他

<アピールポイント>

- ・ 参加した子どもたちが、大変真剣に意欲的に取り組んでいること。
- ・ 市内全域から集まる参加者同士のつながりが深まっていること。



■ ゲームや歌を通して英語に親しもう！

■ 草津市	
■ 活動名	英語教室
年間開催日数	2日

コーディネーター数	2人
土曜教育推進員数	4人
子どもの平均参加人数	50人

■ 活動の概要

立命館大学英語研究会に所属する学生から、英語を使ったゲームや歌などを通して、英語で話すことに慣れ親しむ活動を企画・指導いただいた。1日の活動時間は、小学6年生 10:00～12:00、中学生 14:00～16:00（ただし、小学6年生・中学生とも後半30分は質問タイムとして設定している）である。2日間にわたって実施した。

実施日：9月6日、9月13日

■ 特徴的な活動内容

- ・ Birthday chain（名前と誕生日を英語で紹介しあう）
- ・ 英語でじゃんけん Rock, Paper, Scissors
- ・ 英語でかるた（発音を聞いて合うカードを見つける）
- ・ 洋楽 Listening&Singing（英語で歌おう）
- ・ 英語すごろく（チームを作って対戦形式で行う）



■ 実施に当たっての工夫

- ・ 活動の中で出てきた単語の発音についての留意ポイントやその単語から知識を広げるような話題提供を行うことで、英語に対する興味が膨らむようにした。
- ・ 体を動かしながら英語で話す活動をいくつも取り入れることで、楽しい雰囲気の中で進められるようにした。
- ・ ゲームを通して、参加者同士の人間関係が深められるように活動を工夫した。

■ 事業の成果

- ・ 小学校において外国語活動に取り組んでいることもあり、簡単な日常会話や単語については身につけていた。このため、英語で話したり、歌を歌ったりすることについて、恥ずかしがることなく取り組んでいた。
- ・ 英語を得意とする参加者からいろいろな知識を引き出すような声かけもあり、個を生かした活動が展開できた。
- ・ 2日に渡って実施したが、参加者も多く、興味を持っていることが伺えた。特に、中学生は真剣な態度で臨んでいた。
- ・ 「覚えておくと便利なこと」や「得意顔になれること」などといった言い回しで学生が話しかけてくれた。興味をそそるような声かけであり、知識として記憶しておこうとする意欲を掻き立てていた。

■ 事業実施上の課題

- ・ 活動内容や準備物等について事前に十分な打合せをしておくことで、開催目的が明確となるため、指導を進める上でもやりやすく、また主催する側の意図に沿ったものとなる。
- ・ 市内小学生や中学生が使っている教材や教科書等の内容を、事前打合せの際に講師に示すことで、子どもたちの外国語（英語）活動についての習得状況が明らかとなり、より実態に即した活動が仕組めることになる。

■ その他

- ・ 講師としてお願いした立命館大学英語研究会の学生の意気込みと能力がすばらしく、講師間の事前協議や準備等もしっかりとされており、大変スムーズに活動が展開された。また、英語の発音等があたかもネイティブであるかのように聞こえるほど洗練されており、個々人の努力が伺えた。子どもたちにとって、「自分も努力によって身につけることができるのでは」と思えるすばらしいモデルに出会えたことで、英語学習に対する興味が一層沸いてくるよい機会となった。



■ マンガやイラストで伝えたいことを表現しよう！

■ 草津市	
■ 活動名	
絵画教室	
年間開催日数	1 日

コーディネーター数	2 人
土曜教育推進員数	4 人
子どもの平均参加人数	57 人

■ 活動の概要

立命館大学琵琶湖漫画研究会に所属する学生から、イラストやマンガ・似顔絵などの描き方やこれらを用いた効果的な表現方法等について指導していただいた。また、自分たちがイラストなどの絵を描くことが好きになったきっかけとなる出来事などについても話してもらった。1日の活動時間は、小学6年生 10:00～12:00、中学生 14:00～16:00（ただし、小学6年生・中学生とも後半30分は質問タイムとして設定している）である。

実施日：9月20日

■ 特徴的な活動内容（指導内容）

- ・似顔絵を描く際の特徴のとらえ方について
- ・思いを伝えることに主眼をおいたイラストの描き方について
- ・イラストやマンガで表現することのよさについて



■ 実施に当たっての工夫

- ・参加者が表現しやすい大きさを選んで描けるように、大きさの異なる2種類の用紙を準備した。
- ・見本となる作品を用意しておき、提示することでイメージを持ちやすくした。
- ・イラストで表現するよさや意味合いを明らかにすることで、目的に応じた描き方ができるようにした。
- ・扱いやすい画具として、色鉛筆を用いた。
- ・プロジェクターと実物投影機を活用し、見本や参加者の作品をリアルタイムで大きく映し出すことで、活動内容の理解促進や活動意欲の持続を図った。

■ 事業の成果

- ・イラストに持たせる意味合いを明らかにすることで、リアルに描いたり、デフォルメ効果で描いたり、全体を描いたり、あえて一部分のみを強調して描いたりというようにさまざまな描き方があり、それを適切に選択することが大切であるとの理解を深めることができた。
- ・文章やイラストをうまく組み合わせることで、より効果的に思いや考えが伝えられることが理解できた。
- ・学習のまとめとして新聞づくり等を行う際、効果的にイラスト等を使おうとする意識を高めることにつながった。

■ 事業実施上の課題

- ・今回は1回限りの講座であったが、3回程度の連続講座として、それぞれに違うテーマを決めて実施することで、より参加者のニーズに合った学びの機会が提供できるのではと感じた。例えば、ポスターづくり講座などは大変効果的であると思われるので、ぜひ開催してみたい。
- ・会場と時間等の関係で、今回は画具として色鉛筆を用いたが、可能であれば、テーマにもよるが水彩絵の具などを使えるとよかった。

■ その他

- ・今回の絵画教室は、参加者のニーズにマッチしたようで、今年度実施した「草津市土曜日学びの教室」全25回のうち、参加人数が最も多い講座であった。
- ・指導を依頼した学生は、研究会としてこのような形で指導する機会は初めてであると話していたが、指導者2名がうまくかけあいをしながら、参加者の興味をひきつけた指導を行ったり、伝えたいことをより分かりやすく伝えられるように事前に打合せをして指導にあたったりなどの工夫をしており、感服した。



■ アニメーションで表現しよう！

■ 草津市	
■ 活動名	タブレット教室
年間開催日数	3日

コーディネーター数	2人
土曜教育推進員数	4人
子どもの平均参加人数	47人

■ 活動の概要

ICT 支援員ならびにライズ株式会社の社員により、タブレットの基本的な操作方法やプレゼンテーションアプリを用いた簡易アニメーション作成の手順などを指導していただいた。1日の活動時間は、小学6年生 10:00～12:00、中学生 14:00～16:00（ただし、小学6年生・中学生とも後半30分は質問タイムとして設定している）である。

実施日：11月1日、12月20日、1月31日

■ 特徴的な活動内容

グループで決めたテーマにもとづき、タブレットを使って簡易アニメーションをつくる。

■ 実施に当たっての工夫

- ・タブレットにインストールされているアプリの基本的な使い方の指導、タイピング練習等を丁寧に行う。
- ・簡易アニメーションを作成するにあたって、使える材料（小物）として、人形や模型、粘土、装飾品、紙とペンなどを用意しておく。
- ・時間の関係上、グループでの作品づくりとなるため、グループ編成を行い、グループで活動する時間と個別に活動する時間を使い分ける。
- ・参加者のイメージが膨らむように、講師が作成した作品を見本として提示する。



■ 事業の成果

- ・グループで相談していろいろなアイデアを出し合い、自分たちの主張が分かりやすく表現できるように、簡易アニメーションを作成することができた。
- ・今年度市内の小学校に配備されたタブレットを使った講座であったため、操作に慣れている部分も見られたが、今回使ったアプリの操作方法も新たに知る機会となり、今後の学校での活用に生かせるものとなった。
- ・グループで相談して役割を分担し、協力して作品づくりに取り組めた。
- ・発想豊かな作品ができあがった。

■ 事業実施上の課題

- ・参加者一人ひとりの訴えたいこと（テーマ）にちがいがあがあるため、時間的な課題がクリアできるのであれば、個人としての作品づくりの機会も確保したい。
- ・1回目は、市内に配備されているタブレット25台を収納ボックスに収めて会場まで搬入したが、かなりの重量となったため、2人がかりで搬入・搬出を行うこととなり、準備と後始末に時間がかかった。
- ・会場を市内小学校にすれば、タブレットの搬入・搬出の時間が省けるとともに、ネット環境が整っているため、今回とは違った内容で実施することが可能となるが、土曜日に学校を開けることにもなり、管理の面で課題がある。



■ その他

- ・市内の小中学校を日ごろから巡回して支援いただいているICT支援員さんに講師としてお越しいただけたことで、スムーズな運営が図れた。

■ 地球にやさしい生活を送ろう！

■ 草津市	
■ 活動名	
環境学習	
年間開催日数	1日

コーディネーター数	2人
土曜教育推進員数	3人
子どもの平均参加人数	45人

■ 活動の概要

(株)大阪ガスグループキッズ応援プロジェクトに応募し、地球環境とエネルギーについて、実験を通してご指導いただいた。1日の活動時間は、小学6年生 10:00～12:00、中学生 14:00～16:00（ただし、小学6年生・中学生とも後半30分は質問タイムとして設定している）である。

実施日：12月13日

■ 特徴的な活動内容

液体窒素の冷熱実験と地球に優しい燃料電池を体験しよう！

(1) インドネシアやブルネイ、オーストラリアなどから天然ガスを海輸するにあたって、 -160°C まで冷やすことで体積を1/600にして運ばれてくることを説明し、その後、液化天然ガスの代替物質として、 -196°C まで冷やして出来る液化窒素による冷熱実験を行う。冷熱により体積が小さくなること、物質が固くなることなどを体験する。

(2) 地球温暖化の要因の一つである二酸化炭素などの排出量を抑えながら電気を作るために自然エネルギーを利用した発電が行われていることを知るとともに、実際に実験をとおして風の力や燃料電池により発電できることを学ぶ。



■ 実施に当たっての工夫

- ・上記(1)については、原則示範実験とする。(2)は配付されたキットを使って小グループごとに実験に取り組む。
- ・(1)については、危険を伴うので、「立ち上ったり、前に出てきたりしない」ように事前の指示を厳守させる。
- ・二つの実験を通してエネルギーの概要を理解した後、身近な生活における省エネルギー対策として、個々人が地球環境を守るための実践的な行動に移せるよう、テキストを用いて具体的な行動目標を決定させる。

■ 事業の成果

○喫緊の課題として多くが認識している地球温暖化の問題に関わり、具体的な実験を通して学ぶことができたことはよかった。
○自らの生活の中から無駄を省き、エネルギー消費量を少しでも抑えるための生活様式に変えていこうとするエコ意識や意欲が、多くの参加者の今後のめあてとして明らかにされたことはよかった。それぞれの家庭や友人等に今回の学びを広げていこうとする意識が育つきっかけになればと思う。

○子どもたちの素直な知的好奇心を湧かした機会としてうまく機能した。今回のねらいとは少しずれるが、学習後に「これを液化窒素につけてみてください」と消しゴムや手袋、ペン、雑草などを持って前へ出てくる姿が多数見られたことは、成果としてあげられる。なお、この状況が、男子よりも女子に顕著に見られたことは驚きであった。

■ 事業実施上の課題

小学校の理科において、空気中の成分として酸素や二酸化炭素、窒素についての学習をする。窒素については大きな割合を占めているものの、あまり大きく取り上げることはない。今回、液化天然ガスの代替として、液化窒素を用いた冷熱実験を行った。いろいろな物質を液化窒素につけて冷やすことで体積が極小されることや取り出すとすぐに蒸発することなどが明らかになった。今回の実験の目的とは少しずれるのだが、窒素の持つ有用性について、ふれてもらえると子どもたちの認識が新たにされてよかったのではと感じた。また、今回のような学習環境の中でも可能であるのなら、窒素を -196°C まで冷やすことで液化窒素に変わっていく過程を実際の実験もしくは映像で見せてもらうことができれば、より理解が増したように思った。



■ その他

出前授業として依頼したため、(株)大阪ガスのご好意により、講師の謝金や消耗品費等の経費は一切不要であった。

■ 身近なものを紹介しよう！

■ 草津市	
■ 活動名	作文教室 1
年間開催日数	3日

コーディネーター数	2人
土曜教育推進員数	4人
子どもの平均参加人数	41人

■ 活動の概要

(株) 学研エデュケーショナルへの委託により派遣された講師による指導の第1クール目。1日の学習時間は、小学6年生が10:00～12:00、中学生が14:00～16:00（ただし、小学6年生・中学生ともに後半30分は質問タイムとして設定している。）である。一つの基本テーマで3回（3日）実施する。

実施日：7月5日、7月12日、7月19日

■ 特徴的な活動内容

小学生テーマ「身近なものを紹介しよう」

①自己紹介文を書こう ②わたしの友だちについて書こう ③私の学校を紹介しよう

中学生テーマ「自分と友だち」

①私 ②私の家族 ③友だちから学んだこと

■ 実施に当たっての工夫

- (1) 実際に作文に取りかかる前に、プリントを活用して言語指導を行う。
- (2) 作文活動は、文の構成にあわせてスモールステップをふみ、それぞれに自分の考えや思いをメモとしてまとめる。
- (3) まとめたメモを順番に書いていきながら、1枚の作文に仕上げる。
- (4) 書いた作文は添削されて次回以降に戻されるので、講師のコメントをもとに修正を加える場合もある。



■ 事業の成果

文章の構成（起・承・転・結）にあわせて、まとめるポイント等がプリントには示されており、そのポイント（質問）に応じて自分の考えや感じたこと、思ったことなどをメモ書き程度にまとめていくことで、構成の整った作文ができる。

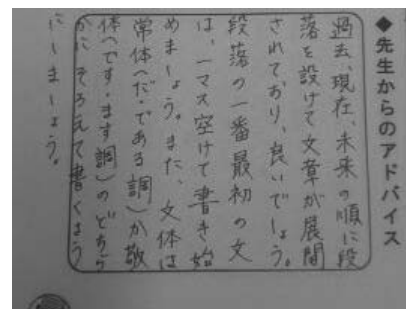
このことから、子どもたちは、あまり抵抗感なく書き進めることができた。

また、字数制限がされているものの、さほどの量ではないため、少し工夫することで最終行まで書き満たすことができ、達成感を感じやすかった。

小学生テーマ『「身近なものを紹介しよう」 ③私の学校を紹介しよう』では、各自が自分の学校のよさを大いに紹介した。このことにより、参加児童間での交流が生まれ、市内の他の小学校について知ることができてよかった。

■ 事業実施上の課題

毎回参加が原則であるが、都合により欠席する場合もあるため、参加していない日の作文が添削されて返却されたときに、自分の作文がないことがある。系統立てた指導がされているが、欠席したことで全く次につながらなくなることはない。しかし、参加者が居づらくなるような雰囲気にならないように配慮する必要がある。



■ その他

添削指導により、個々の作文用紙に講師先生のアドバイスが記載されて、返却される。

<例>

「過去、現在、未来の順に段落を設けて、文章が展開されており、良いでしょう。段落の一番最初の文は、一マス空けて書き始めましょう。また、文体は、常体（だ・である調）か敬体（です・ます調）のどちらかにそろえて書くようにしましょう。」

■ 順序だてて説明しよう！

■ 草津市	
■ 活動名	
作文教室 2	
年間開催日数	3 日

コーディネーター数	2 人
土曜教育推進員数	4 人
子どもの平均参加人数	38 人

■ 活動の概要

(株) 学研エデュケーショナルへの委託により派遣された講師による指導の第2クール目。1日の学習時間は、小学6年生 10:00～12:00、中学生 14:00～16:00（ただし、小学6年生・中学生とも後半30分は質問タイムとして設定している）である。一つの基本テーマで3回（3日）実施する。

実施日：7月26日、8月2日、8月9日

■ 特徴的な活動内容

小学生テーマ「順序だてて説明しよう」

① 順を説明しよう ②料理レシピをつくろう ③4コママンガを説明しよう

中学生テーマ「資料を見て書く」

① 書量調査 ②新聞を読む時間 ③食料自給率

■ 実施に当たっての工夫

小学生については、「はじめに」「つぎに」「おわりに」といった接続詞の使い方を主たる学習内容として実施した。それぞれにまとめたものを一つの段落として構成し、説明文を作成した。

中学生については、グラフや表から読み取ったことをまとめて段落を構成し、最後に自分の考えを記述するという手順で説明文を作成した。グラフや表を読み取る観点もプリントに記載されており、読み取りやすい工夫・一つのグラフや表から何を読み取ればよいのかに気づける工夫も加えた。



■ 事業の成果

「説明文の基本的な作成手順や接続詞の使い方」「説明文を作成するための資料となるグラフや表を読み取る観点」等が明らかにされた学習プリントを使用することで、文章の構成方法等の理解が進んだ。このことにより、参加者の作文に対する抵抗感を和らげ、作成意欲を高めることができた。

■ 事業実施上の課題

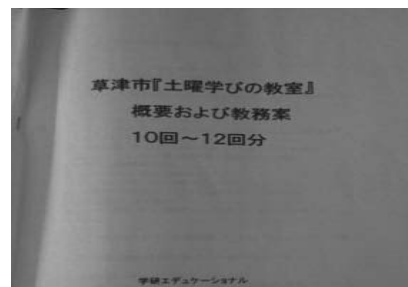
年度当初に、市内小中学校の土曜日の行事（中体連等）を把握し、「土曜日学びの教室」の開催日を充てないように調整したが、夏季休業中であるため、家族団らんの機会が増えたり、他の習い事やスポーツ少年団等の予定と重なったりしたことで、欠席者が増えてしまった。

学びのセーフティネット（土曜日の子どもたちの安全な居場所づくり）という目的をふまえ、「土曜日学びの教室」を夏季休業中に開催することの有効性について、検討する余地がある。

■ その他

(株) 学研エデュケーショナルが作成した1単位時間ごとの指導案をもとにそれぞれの講師が、用意されている教材だけでなく自分なりに工夫したプリント等を用いたり、自らのこれまでの経験をもとにしたコラムなどを紹介したりしながら学習指導を進めた。

子どもたちが興味をもって学習に参加している姿を多く見る事ができた。



資料をもとに自分の考えをまとめよう！

■ 草津市	
■ 活動名	
作文教室 3	
年間開催日数	3日

コーディネーター数	2人
土曜教育推進員数	4人
子どもの平均参加人数	44人

■ 活動の概要

(株) 学研エデュケーションへの委託により派遣された講師による指導の第3クール目。1日の学習時間は、小学6年生 10:00～12:00、中学生 14:00～16:00（ただし、小学6年生・中学生とも後半30分は質問タイムとして設定している）である。一つの基本テーマで3回（3日）実施する。

実施日：10月11日、10月18日、10月25日

■ 特徴的な活動内容

小学生テーマ「絵を見て考えよう」

①1枚の写真から ②図書館のマナー ③マンガを見て考えよう

中学生テーマ「抽象課題を考える」

①信頼について考える ②約束について考える ③自然について考える

■ 実施に当たっての工夫

小学生は、写真や挿絵・マンガを見て考えたことを書き表す活動に取り組んだが、それぞれの写真や挿絵・マンガのどこを見るのか、何を考えるのかという観点を示すことで、自分たちの考えがまとめやすくなるように工夫した。

中学生は、課題に対して「どのようなものであると考えているか」、「どう受け止めているか」をこれまでの経験等を踏まえて書き表す活動に取り組んだ。目で見ることのできない「信頼」や「約束」、さまざまなカテゴリーを総称した「自然」に対する考えを述べることになるため、ややもすると漠然となりがちである。よって、できるだけこれまでの経験に基づいて考え、具体的な例を示しながらまとめていけるように、観点やポイントを提示して進めた。



■ 事業の成果

抽象的なものについての考えをまとめる場合、ややもすると一般論で終始してしまうが、今回、具体例を挙げながら、「だからこう考える」というように組み立てていく手法を指導したことで、自分なりの根拠に基づいた見解を示す作文としてまとめることができた。

このことにより、自分の考えを書き示す文づくりでは、具体的な例をあげて主張すると効果的であるという認識をもつことができた。

また、前時の個々の作文から見つけた優れた表現を、講師が全体の場で伝えたことで、学びの共有・拡充ができ、個々の表現力を高めることにつながられた。

■ 事業実施上の課題

本事業で使う原稿用紙は600字詰めである。学校の授業で使う原稿用紙は400字詰めが一般的であり、この用紙を2枚～3枚程度用いることが多い。

あえて600字に設定しているのは、1枚で「起・承・転・結」または「はじめ・なか・おわり」といった構成要素に照らし合わせて、で書きまとめやすくなり、所要時間等を考慮したためである。

今後、参加者の慣れの程度にあわせて、「1枚の字数を増やす」「枚数を増やして書く」ことも検討する必要があると考えている。



■ 立場を選んで考えをまとめよう！

■ 草津市	
■ 活動名	作文教室 4
年間開催日数	3日

コーディネーター数	2人
土曜教育推進員数	4人
子どもの平均参加人数	40人

■ 活動の概要

(株) 学研エデュケーションへの委託により派遣された講師による指導の第3クール目。1日の学習時間は、小学6年生 10:00～12:00、中学生 14:00～16:00（ただし、小学6年生・中学生とも後半30分は質問タイムとして設定している）である。一つの基本テーマで3回（3日）実施する。

実施日：11月22日、11月29日、12月6日

■ 特徴的な活動内容

小学生テーマ「立場を選んで理由を述べよう」

①学級文庫にマンガは必要か ②国語か算数か ③手紙かメールか

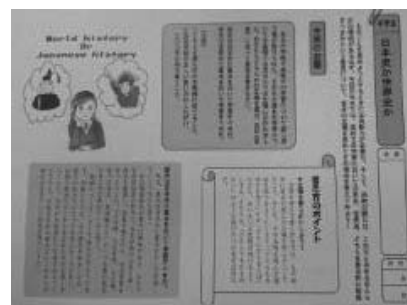
中学生テーマ「立場を選んで書く」

①メールか手紙か ②日本史か世界史か ③ビデオか写真か

■ 実施に当たっての工夫

ディベート的な発想で取り組める題材であったため、自分の立場を明らかにすることから始めた。実際のディベートではないので、反論する機会等はないが、いかに「なるほど」と他の者が思える理由を挙げながら文章を書けるかにポイントをおいて指導を行った。

その理由を見つけるうえで参考となる学習プリントを用意するとともに、講師も巡視をしながら、個に応じた声かけを行った。



■ 事業の成果

二者択一を求められる状況の中で、自分の立場を自ら決定し、主張文を作成するという学習であったため、より積極的な学びの姿が見られた。また、参加者の中で、それぞれの考えや立場を交流することができ、それぞれの価値観があることに気づくことができた。

相手に「なるほど」と思わせることができる理由を考えることについては、その観点例等が記載された学習プリントを用意したことで、それを参考にしながら書きまとめることができた。

■ 事業実施上の課題

時間に余裕があれば、実際にディベートを実施することで、「どのようなことを聞かれるか」、「どのような理由立てをすれば、相手をより納得させられるか」、また「相手が思いもつかないような理由はないのか」、など単に作文指導にとどまらないで、より表現力を高めるための機会ができたのではないかと考える。

■ その他

講師2名による指導・巡回支援の様子。

コーディネーター1名も教員免許を持っており、状況によっては個別の支援を行っている。



■ 歴史を知って今を考えよう！

■ 草津市	
■ 活動名	歴史教室
年間開催日数	1日

コーディネーター数	2人
土曜教育推進員数	2人
子どもの平均参加人数	50人

■ 活動の概要

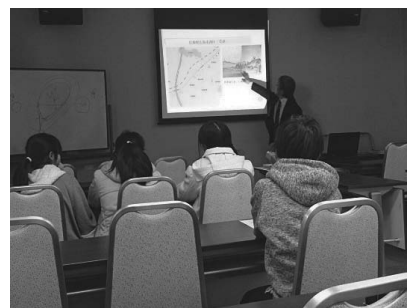
草津宿街道交流館の職員より、歴史を学ぶ意義や草津市にまつわる歴史的トピックなどの講話と浮世絵刷りの体験活動の指導をしていただいた。

実施日：1月17日 市民交流プラザ会場、1月24日 人権センター会場

1日の活動時間は、小学6年生 10:00～12:00、中学生 14:00～16:00（ただし、小学6年生・中学生とも後半30分は質問タイムとして設定している）である。

■ 特徴的な活動内容

- ・歴史のとらえかた、見直される歴史、歴史を学ぶ意味などの内容にふれた講話
- ・草津市にまつわる歴史トピックの紹介
- ・歴史を学ぶ上での浮世絵の価値や存在意味についての講話、浮世絵刷り体験



■ 実施に当たっての工夫

- ・歴史学習に対して興味をもてるような投げかけや資料を用意する。
- ・浮世絵刷り体験を取り入れたり、身近な草津市の移り変わりなどを紹介したりすることで、歴史を学ぶおもしろさ等が体感できるようにする。

■ 事業の成果

- ・講師に視線を向け、真剣に話を聞く小学生の姿や、浮世絵刷りに熱心に取り組む中学生の姿が見られた。多重刷りのためずれが生じないように、版の下部に「見当」がつけられているが、その「見当」に確実に画紙をおさめ、細心の注意を払って活動していた。
- ・1枚では納得できる作品にまとめきれず、複数枚の印刷に挑戦する中学生も多かった。

■ 事業実施上の課題

- ・事前に小学6年生ならびに中学生の社会科・歴史の教科書を見て、子どもたちの学ぶ歴史的ことについて調べておく。
- ・事前のアンケートでは、小学6年生では「歴史学習が好き」と答える割合が半数を超えていた（ちなみに「嫌い」は0%）が、中学生になると、「おもしろくない」「きらい」と答える割合が極端に高くなっていた。中学生では、入試も視野に入れて学習が進められるため、歴史学習は、覚えなければならない教科としてのイメージが強く、これを苦手とする生徒にとっては、苦しい学習になってしまいがちである。なかなか1回の学習で歴史学習のおもしろさを感じたり、興味をもったりすることは困難であるが、少なくともこの1回は「楽しかった。おもしろかった。参加してよかった。」と思える内容にしたいと考えて取り組んだが、日々の学校での学習にどれだけつなげられるかと考えるとなかなか厳しいものが感じられた。

■ その他

- ・浮世絵刷りを出来るだけ簡易に体験できるように、4色スタンプ盤（黒・青・緑・赤）を使って多色刷りをしたが、スタンプ盤の色の種類がもっと多ければ、より本物に近い彩色ができ、深みのある作品作りが体験できたように思われる。
- ・草津宿街道交流館は休日に開館されているが、市内小中学生のためにと時間を調整してお越しいただくことができた。歴史研究の専門家から本市の歴史について、また日本の歴史について大変興味深い話を聞く事ができた。
- ・「小学校や中学校で使っている教科書は、日本の歴史の一連の流れをつかむ上でコンパクトのまとめられており、大変よくできた書物である」という話もしていただき、子どもたちの教科書に対する思いも少し変わったのではないかと考えられた。



甲賀市における土曜日の教育支援の取組

■めざす姿

体験活動を通してさまざまな人、もの、知識や技術と出会い、その積み重ねにより子どもの成長を育み、親子の絆を深める。

子どもと地域との交流、連携、学習意欲の向上、仲間づくりを図り、学習を生かす機会を提供することによって、社会還元を促す。

■本年度の活動

地域の多様な経験や技能を持つ人材・高等学校・企業等の協力を得ながら、土曜日、休日に各地域の公民館において、親子教室や子ども教室を開催した。

親子教室や子ども教室等を含む各公民館講座紹介映像を作成して、社会教育委員の会議において紹介、啓発活動を行った。

また、担当職員を対象に企画から事業評価まで、事業実施に向けて研修を行った。

■本年度の成果

子どもたちの安全・安心な居場所づくりができた。地域の方々の参画を得て、地域交流が図れた。

■今後の課題

広報紙や学校を通じてチラシを配付しているが、参加者が少ない教室もあり、チラシ作成の工夫、啓発活動の工夫が必要である。

また、子どもたちにとってより豊かな魅力ある事業の展開が必要である。

さらに、地域の人材発掘、人材育成にも力を入れたい。

■その他

市内公民館合同で夏休み工場見学等の事業も実施している。

毎年10月の土曜日に企業や高等学校、シルバー人材センター等の協力を得て、いろいろな体験コーナーを設け「まなびの体験広場」を開催している。

甲賀市URL：<http://www.city.koka.lg.jp/>



【 まなびの体験広場 2014（平成26年10月11日開催）】

■ さまざまな人・もの・知識や技術を通し、絆を深めていく甲賀の親子

■ 甲賀市	
■ 活動名	水口中央公民館 親子ふれあい講座
年間開催日数	9日

コーディネーター数	1人
土曜教育推進員数	2人
子どもの平均参加人数	10人

■ 活動の概要

体験活動を通してさまざまな人、もの、知識や技術と出会い、その積み重ねにより子どもの成長を育み、親子の絆を深める。

【主な活動内容】

ポーセラーツ体験・・・食器作り 6/28 (23名)
 動くおもちゃ作り・・・おもちゃづくり1・2 7/19 (20名)、7/26 (17名)
 パン作り・・・パンづくり1・2 共に8/23 (18名、19名)
 ふれあいスポーツ体験・・・ふれあいスポーツ体験 10/25 (14名)
 指で描くクリスマスカード・・・指で描くクリスマスカード 12/20 (21名)
 親子でクッキング・・・親子でクッキング1・2 共に1/18 (10名、12名)

【主な活動場所】

水口中央公民館、水口体育館

■ 特徴的な活動内容

甲賀市内の小学1年生から3年生の子どもとその保護者（親子）を対象としている。

親子で作る体験を多くし、児童と保護者との関わりを意識した活動を計画した。

■ 実施に当たっての工夫

講師は、できるだけ甲賀市教育人材バンク登録者や自主学習登録団体、または地元の方をお願いするようにしている。
 多くの地元の方の協力が得られた。

■ 事業の成果

各講座とも、親子で楽しく活動できている。

保護者の方にとっては、普段の生活ではなかなか見られない子どもの様子や、自分が思ったより成長している我が子の姿を実感できる場ともなっているようである。

講師の方たち自身の学習の場ともなっていて、たくさん子どもたちとふれあえる貴重な体験であったとお聞きしている。

■ 事業実施上の課題

参加対象となる子どもたちも、いろいろな学校行事や地域の行事、その他さまざまな活動がある。それらとの兼ね合いをどうしていくか、また、より魅力のある講座をどのように開催していくかが課題である。



【お父さんも大活躍！（動くおもちゃ作り）】



【パンで動物の顔をつくりました（パン作り）】

■ **さまざまな人・もの・知識や技術との出会いから学ぶ、甲賀の子どもたち**

■ 甲賀市	
■ 活動名	
水口中央公民館 子ども公民館講座	
年間開催日数	15日

コーディネーター数	1人
土曜教育推進員数	2人
子どもの平均参加人数	12人

- 活動の概要

体験活動を通してさまざまな人、もの、知識や技術と出会い、その積み重ねにより子どもの成長を育む。

【主な活動内容】

母の日・父の日のプレゼントづくり（粘土工芸）・・・母の日：5/10（10名）、父の日：6/7（8名）

押し絵・・・・・・・・・・・・・・四季の押し花（春夏秋冬） 6/14（8名）、9/27（7名）、11/18（10名）、2/14（7名）

夏休み・冬休み宿題お助け講座・・・・・・・・夏休み自由研究（統計グラフ） 7/23（13名）、夏休み工作クレイクラフト（貯金箱一成形、着色） 7/23、8/20（共に16名）、図書館の利用・本の選び方 7/30（5名）、絵手紙 8/23（18名）、書きぞめ練習 12/26（14名）

お菓子づくり・・・・・・・・・・・・・・野外クッキング（竹パン） 10/18（14名）、お菓子をつくろう1・2 共に12/6（14名、9名）

【主な活動場所】

水口中央公民館、水口図書館、水口スポーツの森

■ 特徴的な活動内容

甲賀市内の小学4年生から6年生の子どもを対象としている。

学習や体験活動など、幅広いジャンルでの活動を意図的に計画し実行できた。

■ 実施に当たっての工夫

講師は、できるだけ甲賀市教育人材バンク登録者や自主学习登録団体、または地元の方をお願いするようにしている。

滋賀県が実施している出前講座も取り入れた（滋賀県統計課・しが統計キッズクイズ）

■ 事業の成果

各講座とも、子どもたちは大変集中して活動できている。ある講座では、休憩時間も惜しんで制作している場面も見受けられた。

講師の方たち自身の学習の場ともなり、また中には普段子どもと接する機会が少ない方にとっては、子どもたちとふれあえる貴重な体験であったとお聞きしている。

■ 事業実施上の課題

参加対象となる子どもたちも、いろいろな学校行事や地域の行事、その他さまざまな活動がある。

それらとの兼ね合いをどうしていくか、また、より魅力のある講座をどのように開催していくかが、課題である。



【先生方も子どもたちも真剣！（押し絵）】



【上手に焼けるかな？（まきまきパンづくり）】

■ 親子の「知りたい」「学びたい」をお手伝い

■ 甲賀市	
■ 活動名	土山中央公民館 親子ふれあい講座
年間開催日数	5日

コーディネーター数	1人
土曜教育推進員数	8人
子どもの平均参加人数	13人

■ 活動の概要

体験活動を通してさまざまな人、もの、知識や技術と出会い、その積み重ねにより子どもの成長を育み、親子の絆を深める。親子で自然体験や、力を合わせて「ものづくり」を通してふれあいを深める。

■ 特徴的な活動内容

自然体験（お弁当持ってハイキング）・・・ハイキング 6/14（中止）
 作品制作（アルミ缶風車作り）・・・風車作り 8/2（4名）
 環境学習（地球にやさしいラーメン作り）・・・ラーメンづくり 10/19（14名）
 おかしづくり（クリスマスケーキのデコレーション）・・・ケーキづくり 11/19（22名）
 ふれあいあそび（凧作りと凧上げ）・・・タコづくり 1/24（中止）

【主な活動場所】

土山中央公民館、土山開発センター

■ 実施に当たっての工夫

ものづくりを通して環境学習やリサイクルの学習をしている。また、ふれあいあそびでは昔のあそび体験をしている。昨年人気があったおかしづくりでは、子どもたちも大変興味をもち定員オーバーでキャンセル待ちもいる盛況である。参加した親子に何がしたいか聞き取り次回の講座の参考にしている。

■ 事業の成果

参加者はどの事業についても大変楽しんでいて。親子のふれあいと絆を深められた。また、一度参加された親子は次回の事業にも参加してもらえた。

■ 事業実施上の課題

実施内容によって参加者の人数に偏りがあった。参加者のニーズにあった事業の計画をしたい。参加する親子が同じで広がりが無いので周知の方法を考える必要がある。



【アルミ缶の風車】



【ケーキのデコレーション】

■ あいの土っこ“きらねっ人”いきいき活動

■ 甲賀市	
■ 活動名	土山中央公民館 子ども公民館講座
年間開催日数	11日

コーディネーター数	1人
土曜教育推進員数	24人
子どもの平均参加人数	23人

■ 活動の概要

体験活動を通してさまざまな人、もの、知識や技術と出会い、その積み重ねにより子どもの成長を育む。
地域の大人が指導者・スタッフとなり、さまざまな体験活動を子どもと一緒にやる。

■ 特徴的な活動内容

- ・特産品や季節に応じたおやつづくり
- ・げんこつあめ・・・ 7/5 (5名)
- ・ふれあいあそび・・・大野学区区民祭 (おじゃみ、折紙、糸車、カラム等) 6/8 (53名)、夏休みあそびの広場 (4回 スライム作り、パルーンアート、折紙等) (67名)、宿場まつり (昔遊び) 10/12 (40名)、文化祭あそびの広場 11/9 (39名)、クレープ作り 12/21 (6名)、たいけん屋台村 2/21、いちご大福 2/21

【主な活動場所】

大野小学校、山内公民館、大野公民館、土山中央公民館

■ 実施に当たっての工夫

- ・ボランティアバンクに23人の登録があり、事業への参加はその都度登録者に案内し、協力を求めている。
- ・また、保護者に送迎をしていただいている。子どもが参加しやすいように4つの公民館や町内の公共施設を巡回して開催実施している。文化祭や宿場まつりなど地域での事業にも協力して参加者が増えるようにしている。

■ 事業の成果

- ・参加した子ども達のアンケートでは、「楽しかった」「上手にできてよかったです」「新しい友だちができてよかった」などの意見があり次回開催の参考になった。

■ 事業実施上の課題

- ・年々、参加者が減少傾向にあり、内容のマンネリ化も課題のひとつである。地域のヒト・モノを活かしながら、新しい体験活動（メニュー）を取り入れるなどの工夫が必要である。
- ・ボランティアが高齢化しており人数も減少傾向にあり、新しいボランティアの育成が必要である。



【折り紙（文化祭）】



【げんこつあめ】

■ 飛び出せ！ ちびっこ忍者たち（甲賀★忍者隊）

■ 甲賀市	
■ 活動名	KOKA楽こども公民館「甲賀★忍者隊」
年間開催日数	7日

コーディネーター数	1人
土曜教育推進員数	6人
子どもの平均参加人数	8人

■ 活動の概要

野外活動やものづくりなどの様々な体験を通して子どもたちの創造性を育むとともに、グループ活動をすることで自主性や協調性を養う機会とする。

■ 特徴的な活動内容

デイキャンプ・・・市内キャンプ場で行う野外活動。火おこしや薪わり、野外調理、ネイチャーゲームなどを行う。10/4（8名）
 集まれ、忍者隊！・・・6/14（9名）
 流しそうめん・・・8/23（4名）
 旅研修事前学習・・・11/8（8名）
 旅研修・・・全員が協力してクイズを解いたり、チェックポイントを探したりしながら、あらかじめ設定された目的地を目指す。旅をする中で目的地の歴史や文化だけでなく、公共交通機関の乗り方や人との関わり方なども併せて学ぶ。12/6（8名）
 ものづくり・・・2/7
 まなびたいけんフェスタ参加3/1

【主な活動場所】

からか生涯学習館、高間みずべ公園、信楽町

■ 実施に当たっての工夫

子どもたちに目的意識を持たせるとともに、協力することの重要性に気付かせるようなプログラムとなるよう工夫している。また、事業に関わるスタッフが自らも楽しめるよう心がけている。

■ 事業の成果

スタッフや地域住民とも活発な交流が図られている。また、継続して受講している子どもは知識も深まり、リーダーシップも発揮しつつある。活動を通じて他校の子どもたちと積極的に関わろうとする姿も見られ、ほぼ全員が毎回参加していることから、活動を楽しみにしている様子が伺える。保護者からも当事業の活動に期待する声が多く聞かれ、スタッフもやりがいを感じられている。

■ 事業実施上の課題

スタッフの就職や結婚、出産などにより、事業実施に必要な人員を確保することが困難となる場合があり、事業の円滑な実施や安全確保の観点からも、プログラム内容の見直しとともに新たな人材の育成が急務となっている。



【火おこし体験】



【作陶体験】

■ きみも天文はかせになろう！（こども天文クラブ）

■ 甲賀市	
■ 活動名	KOKA楽こども公民館「こども天文クラブ」
年間開催日数	8日

コーディネーター数	1人
土曜教育推進員数	4人
子どもの平均参加人数	20人

■ 活動の概要

天文知識の向上と仲間づくりを目的とし、子どもたちの交流を図りながら併せて環境問題についても考える機会とする。体験活動を通してさまざまな人、もの、知識や技術と出会い、その積み重ねにより子どもの成長を育む。

■ 特徴的な活動内容

天体観望・・・西日本最大級の屈折型天体望遠鏡を使い、太陽系の惑星の観望や季節の星座について学ぶ。

流星群観望・・・8月のペルセウス座流星群を親子で一緒に観望する。

・天文クラブ1～8・・・6/21（25名）、7/19（22名）、8/12（20名）、10/18（11名）、11/1（15名）、12/6（17名）、1/10（17名）、2/21

市外研修・・・大津市科学館、名古屋市科学館のプラネタリウムや館内展示を見学する。

クラフト工作・・・太陽系の惑星や月、人工衛星などのペーパークラフトを作る。

【主な活動場所】

かふか生涯学習館、大津市科学館、名古屋市科学館

■ 実施に当たっての工夫

当館で定期的（月2回）に開催している天体観望会に将来スタッフとして協力いただけるよう、人材育成の場としても位置付けている。また、市外研修など施設外での活動を実施する場合は、バディを組んだうえでグループ行動をさせるなど、事故の未然防止を図るようにしている。さらに、毎回天体に関するミニ知識を記載した出席カードを作成して参加者に配付、すべて参加した受講者にはささやかなプレゼントを渡すなど、子どもたちの学習意欲を喚起するような工夫もしている。

■ 事業の成果

毎年50名前後の受講申込みがあり、当館では最も人気の高い講座である。当講座は市内では当館のみで開催しており、受講者は学区内にとどまらず市内の広範囲に渡るため、多くの小中学校の児童・生徒が交流できる貴重な機会ともなっている。

■ 事業実施上の課題

天文現象は深夜から未明にかけて出現することが多いが、小中学生を対象とした事業であることから、観測に適した時間に開催することは困難である。また、内容的に専門知識を必要とするため、今後も継続して実施していくには、新たな指導者・スタッフの育成を図る必要がある。



【大型天体望遠鏡での天体観望】



【クラフト工作（月球儀づくり）】

■ 親子・家族のわくわく講座

■ 甲賀市	
■ 活動名	親子・家族のわくわく講座
年間開催日数	4 日

コーディネーター数	1 人
土曜教育推進員数	5 人
子どもの平均参加人数	14 人

■ 活動の概要

親子・家族で生活・自然体験を通じ、親子・家族の絆を深め、さらに参加者同士の交流を促し地域の絆を深める。また、公民館が実施する家庭教育支援に位置づける。

■ 特徴的な活動内容

里山自然体験・・・「自然体験活動」 7/6 (13 名)
料理づくり・・・「親子料理教室」 6/21 (19 名)
科学体験・・・「親子科学教室」 11/22 (11 名)
ものづくり・・・「凧作りと凧揚げ」 1/17 (11 名)、「ひなまつり」 2/28

【主な活動場所】

甲南公民館、甲南青少年研修センター

■ 実施に当たっての工夫

子どもの自主性、自立心を向上させるため、子どもが主体的に活動し、大人はサポート役で参加できるよう事業展開している。例えば、のこぎりを使う作業や包丁を使う作業のように、危険だから親が全てをするのではなく、子どもができること親がしなければならぬことを講師と事前に打ち合わせている。

■ 事業の成果

アンケート結果から、「いつもとは違う子どもの姿が見れた」や「親子で参加してよかった」などの声が聞かれ、また、事業継続を希望する意見が多数あった。子どもは自立と自信を高め、子どもができないことを親がするとき尊敬の感情が見られたことから、親子の絆を深めるよい機会であった。

■ 事業実施上の課題

親子関係がある程度成熟していると思われる親子・家庭の参加が大半であり、参加しづらい親子・家庭に対する家庭教育支援をどのように実施していくべきかが課題である。



【 里山自然体験 】

子ども体験講座

■ 甲賀市	
■ 活動名	子ども体験講座
年間開催日数	8日

コーディネーター数	1人
土曜教育推進員数	6人
子どもの平均参加人数	16人

活動の概要

生活・自然体験を通じ、子どもが心身ともに健やかに成長していく上で大切なコミュニケーション能力や協調性を育む。公民館が実施する子ども教育支援に位置づけ、ボランティアを含めて地域全体で子どもたちを育む。

特徴的な活動内容

夏の子ども講座 1 科学 1 「樟脳船と墨流し」 8/7 (12名)
 夏の子ども講座 1 科学 2 「万華鏡」 8/8 (11名)
 夏の子ども講座 1 科学 3 「七宝焼き」 8/12 (19名)
 夏の子ども体験講座 2 「木工細工」 8/27 (22名)、8/29 (14名)
 秋の子ども体験講座 1 「そば打ち体験」 10/25 (18名)
 冬の子ども体験講座 2 「クリスマスのお菓子づくり」 12/24 (17名)

【主な活動場所】

杉谷公民館、かえで会館、甲南公民館

実施に当たっての工夫

町内児童の手に行き渡るよう、学校と連携しチラシを配布している。班分けを実施する場合は、同じ学校同士にならないようにしている。講座内容について、夏休みの宿題に参考となるようなクラフト等を実施し、また、講師は当公民館の自主活動団体に依頼し、地域づくりに向けた人材育成の一面も持ち合わせている。

事業の成果

夏休みの企業訪問を社会科自由研究の題材にしている児童が見られ、社会教育と学校教育をうまく活用してくれた。また、他校の児童と友達になる児童が見られたことから、中学校に進学するまでの交流という面で貴重な機会となっている。

事業実施上の課題

中高生の事業が全くないので、ひとつでも実施していくのが課題である。

対象の児童・生徒の学年があがるほど、多くのボランティアが必要だと感じた。次回は十分行き届くように気を付けて人材を配置していきたい。



【お菓子作り】



【科学教室】

■ みんな集まれ！公民館へ 遊陶里カレッジ講座

■ 甲賀市	
■ 活動名	
遊学舎 親子体験学習	
年間開催日数	2日

コーディネーター数	1人
土曜教育推進員数	1人
子どもの平均参加人数	7人

■ 活動の概要

親子のふれあいをとおし自分たちでつくる楽しみや物のありがたさを感じ豊かな心を育む。また学校という枠をこえ新たな交流を深めることで子どもたちの成長の場とする。

■ 特徴的な活動内容

学校の授業ではあまり体験できない内容を取り入れる。

例)

そば打ち体験・・・そばづくり 9/28 (15名) ふれあいパーク職員による指導

紙すき体験・・・和紙づくり 11/16 (8名) ワークセンター職員による指導

【主な活動場所】

ふれあいパーク、ワークセンター紫香楽

■ 実施に当たっての工夫

2講座とも町内にある福祉施設の工房を利用することで施設の存在など理解してもらう。また、ものづくりを一から体験することによって物を大切にする気持ちや感動を体験してもらう。

■ 事業の成果

普段体験することのない活動を通して、自らの手により作る楽しさや大切さを実感し、人の話をしっかり聞いて学ぶことができた。また、親子のふれあいや他の学校のお友だちとも交流が図れた。

■ 事業実施上の課題

前年度までは低学年～高学年と幅が広がったため、技量度合いが違う対象に対して指導が大変難しかったことから、今年度は、対象学年を1年～3年生としたため受講生が減少してしまった。対象をどの学年に絞るのか、また子どもの求める講座とはどのようなものが検討課題である。



【美味しいそばが完成】



【きれいな和紙ができたかな】

■ みんな集まれ！公民館へ 遊陶里カレッジ講座

■ 甲賀市	
■ 活動名	遊学舎 物づくり夢工房
年間開催日数	7日

コーディネーター数	1人
土曜教育推進員数	1人
子どもの平均参加人数	7人

■ 活動の概要

身近な材料や道具で物づくりの楽しさや創意工夫をする力を養う。

学校という枠をこえ新たな交流を深めることで子どもたちが豊かに暮らしていけるよう支援する。

■ 特徴的な活動内容

学校の授業では体験できない物を作り実際に遊んでみる。

例)

割り箸鉄砲（割り箸と輪ゴムを使って鉄砲を作る）

フリスビーと皿回し（紙のお皿を使って作る）

凧作り等（星型の蛸）

など

【日程と参加人数】

7/24（8名）、8/27（7名）、9/28（15名）、10/25（8名）、11/16（8名）、12/20（8名）、1/17（8名）

【主な活動場所】

信楽中央公民館、信楽中学校

■ 実施に当たっての工夫

子どもたちの居場所と学校では学ぶことができない経験を提供する。

基本的には子どもだけの講座であるが、親子のふれあいの場として全7回の内2回は親子での体験学習を導入する。

■ 事業の成果

身近なものを使うことで物の大切さや新たな発見がうまれた。

“つくる”ことだけでなく完成したもので遊ぶ、使う、食べるを経験しつくることの楽しさや大切さを感じた。

■ 事業実施上の課題

前年度は低学年～高学年と年齢層が幅広いかったため、技量度合いが異なり指導が難しかったことから、今年度は対象学年を1年～3年生としたため受講生が減少してしまった。対象をどの学年に絞るのか、また子どもの求める講座とはどのようなものか検討課題である。



【紙のお皿、うまく回るかな...】



【せんせい！
ゴムどうするの？】

野洲市における土曜日の教育支援の取組

■ めざす姿

市内のさまざまな分野で活躍する幅広い関係者が連携して、学校・家庭・地域社会全体における子どもの生きる力を育む方策及び休日等の子どもたちの安全で健やかな居場所を確保し、児童の健全育成を支援し、地域の教育力の向上及び地域における人々の交流の促進につなげること。

■ 本年度の活動

地域子ども教室の諮問機関である「野洲市地域教育協議会」において、事業内容の情報交換などを年2回行っている。

①運営委員会の協議内容

回	実施日	参加人数	協議内容
1	平成 26 年 5 月 30 日	15 名	(1)平成 26 年度 野洲市地域教育協議会 会長・副会長の選出について (2)平成 26 年度 野洲市地域子ども教室の予算について (3)平成 26 年度 野洲市地域子ども教室の事業計画について
2	平成 27 年 2 月	20 名	(1)平成 26 年度 野洲市地域子ども教室の実施状況について (2)平成 27 年度 野洲市地域子ども教室の概要について

②構成委員（所属・役職名）

野洲市社会教育委員、野洲市青少年育成市民会議会長、野洲学区青少年育成会議役員、三上地域教育推進委員会地域教育推進サポーター、祇王学区青少年育成会議副会長、篠原学区子ども教室運営協議会会長、北野小学校区青少年育成会会長、兵主学区青少年育成会議会長、野洲学区わくわく子どもクラブ事務局、三上地域教育推進委員会事務局、祇王子どもクラブ事務局、篠原地域子ども教室運営協議会事務局、北野っ子フレンドリークラブ事務局、中主地域子ども教室運営協議会事務局、小学校校長会、小学校教頭会

■ 本年度の成果

保護者から異年齢の交流や集団で学習をすることにより、子どもに社会性や集中力が身に付いた等の感想があった。

■ 今後の課題

指導者が高齢化してきており、後継者も育っていないため、指導者を探すことが困難な地域がある。

■ 野洲市地域子ども教室【野洲小学校区】

■ 野洲市	
■ 地域子ども教室	
野洲学区わくわく子どもクラブ	
年間開催日数	32日

コーディネーター数	1人
土曜教育推進員数	16人
子どもの平均参加人数	15.8人

■ 活動の概要

学校5日制にともない、土曜日の午前中に子ども居場所づくり事業として実施

- ①わくわくいけ花は、小学生1年生から6年生22名参加
- ②わくわく絵手紙は小学生3年生から6年生6名参加
- ③わくわく親子クッキングは小学生1年生、2年生とその保護者19名参加
- ④わくわく日本舞踊は小学生1年生から6年生6名参加
- ⑤わくわくカロムは参加人数が多いため、小学生1年生から3年生22名の教室と小学生4年生から6年生31名の教室に分けて開催している。
- ⑥わくわく茶道は参加人数が多く、先生から丁寧に教えてもらうために、小学生1年生から4年生17名の教室と小学校5年生から6年生16名の教室に分けて開催している。

■ 特徴的な活動内容

- ①花の命を大切に季節に合わせて楽しくお部屋を飾る活動
- ②ものの形をしっかりと見ながら絵を描く活動。
絵手紙をとどける活動。
- ③朝食を食べない子どもが多く食育をテーマに保護者に朝食の大切さを認識してもらう活動
料理を通じて親子のコミュニケーションをはかる活動
- ④お琴や三味線の邦楽に合わせて手先・指先の動きや足の運び方の活動
美しい体の動かし方が、身につくような活動
- ⑤お友達と一緒にカロムのチャンピオンになる活動
自分専用のストライカづくり活動
- ⑥日本の四季を感じながら、お茶の作法を学ぶ活動
和菓子作りの体験活動

■ 実施に当たっての工夫

指導者、サポーターとして、地域の高齢者にお願いし子どもたちとの交流を図っている。
わくわくカロムは指導者、サポーターとして、学童保育所の先生にお願いしている。
安全対策として、保護者に送迎をお願いしている。

■ 事業の成果

同年代のつながりだけでなくクラブ形式のため、異年代との交流ができた。

■ 事業実施上の課題

指導者、サポーターの後継者問題



【 わくわくいけ花 】



【 わくわく茶道 】

■ 野洲市地域子ども教室【三上小学校区】

■ 野洲市	
■ 活動名	
三上楽しいクラブ活動	
年間開催日数	50日

コーディネーター数	1人
土曜教育推進員数	15人
子どもの平均参加人数	14人

■ 活動の概要

三上楽しいクラブ活動

- ◆「生け花」・・・月1回 年 9回 (第1土曜日 9:00～10:30)
- ◆「花作り」・・・月1回 年 7回 (第2土曜日 10:30～11:30)
- ◆「和太鼓」・・・月1回 年12回 (第2土曜日 9:00～11:00)
- ◆「クッキング」・・・月1回 年10回 (第3土曜日 9:30～12:30)
- ◆「児童合唱団」・・・月2回 年22回 (第2・4日曜日 9:30～11:00)

■ 特徴的な活動内容

土曜日・日曜日に年間単位で開催しています。毎年クラブ活動の募集をしています。継続して続ける子ども、興味のあるクラブに挑戦する子どもなど複数のクラブに自由に参加しています。

■ 実施に当たっての工夫

クラブ数が多く（他に9クラブあり）行事・開催日を年間カレンダーにして、分かりやすくしています。年2回配布している。1つだけではなく、複数のクラブに参加OKにしているため子どもたちにとっては選択の幅が増えていること。

■ 事業の成果

1回（11月開催）のコミセンまつり「悠紀まつり」で「生け花」の展示・「和太鼓」・「児童合唱団」の発表に向けて目標を持って頑張っている姿が見られた。地域のみなさんに喜んでいただきました。「クッキング」では、高学年の子どもさんが下の学年の子どもさんを思いやる姿が見られました。「花作り」では、昨年種を取っておいてくれた「ほうせんか」の種を今年も種まき・観察・種取りと成長の過程を学びました。来年の、「いちご」の収穫も子どもたちは楽しみにしている。

■ 事業実施上の課題

教育推進員さんの高齢化に伴い、次の方に引き継いでいただける方の体制づくり、依頼方法などボランティアの方に負担がかからないように、多くの方に集まっていたきたいのだが、なかなか簡単ではないこと。



【「悠紀まつり」に発表に向けての練習をしています。】



【11/8 いちごの苗を植えました。来年の収穫が、楽しみです。】

■ 野洲市地域子ども教室【祇王小学校区】

■ 野洲市 コミュニティセンターぎおう	
■ 活動名 野洲市 ギョウ子ども教室（よさこい妓王教室、クッキング教室、クッキングおやつ作り教室）	
年間開催日数	97日

コーディネーター数	1人
土曜教育推進員数	9人
子どもの平均参加人数	12人

■ 活動の概要

- ・よさこい妓王は、おどりとおとして、子ども達の健全育成活動と地域に「笑顔と元気」を届けたいと活動している。
- ・クッキング教室では、健康推進員さんの指導で、料理ができる力や主食・副食をバランスよく食べる事ができるように、また「食べ物を選ぶ力」、「食べる量」など食育を考え健康な体づくりを目的に実施している。
- ・早寝、早起き、朝ご飯の大切さも指導し、参加者に理解していただけるように頑張っている。
- ・よさこい踊りを通して会員相互の親睦を深め、野洲市内の行事参加や県内外地域とも交流活動に取り組む。
- ・子どもや大人が地域を愛し故郷を誇りに思う活動を行う。

■ 特徴的な活動内容

- ・演舞に出場し、人前で踊る事は子どもの自信にもつながり、子ども同士の結束力も強くなっている。
- ・子どもの時から、食事を通して、肥満や生活習慣病の予防等、健康な体づくりについて学習している。
- ・発表の場を設け、緊張感のある場の経験を積むことが出来るようにしている。
- ・よさこいをおとして青少年の健全育成もめざしている。

■ 実施に当たっての工夫

- ・土曜日に子どもの事業が重なる場合があり、できるだけ子どもの事業がない日を選んで実施。
- ・大人も一緒に体験して楽しいと思う内容を工夫している。
- ・様々なイベントに参加して地域の皆様に「笑顔と元気」を届けたいと思い、活動している。

■ 事業の成果

- ・一人ひとりに声かけをすることで、自信をもって行動ができるようになった。
- ・また参加の子ども同士や親同市も、仲良くなり、全体のまとまりが出てきた。
- ・みんなの心が一つになり、妓王の『よさこい』を一生懸命に楽しむことができた。

■ 事業実施上の課題

- ・中学生になると部活動、塾で忙しくほとんどの子どもが退会するので、惜しいと思う。（よさこい妓王）
- ・子ども教室に参加してくれる子は、いつも同じ子どもで、親も熱心である。スポーツ少年団や、塾等の習いもので忙しくしている子どもの参加は難しい。参加者は、小学校低学年の子どもが多い。



【クッキング教室】



【よさこい妓王教室】

■ 野洲市地域子ども教室【篠原小学校区】

■ 野洲市	
■ 活動名	
篠原地域子ども教室	
年間開催日数	70日

コーディネーター数	5人
土曜教育推進員数	15人
子どもの平均参加人数	15人

■ 活動の概要

おもちゃ作り・科学実験・動物ふれあい・陶芸絵付け体験・時節にあった料理・楽器の演奏等、普段体験できない事柄に触れる。

■ 特徴的な活動内容

今の小学校では体験できないような実験や工作。今年度は、カッコー笛やポンポン船作り、お天気実験・温度計作り、陶芸教室では、湯飲み茶わんに絵付け体験。

料理教室では時節や行事にあったものをみんなで楽しく作り、美味しくいただくまでを体験する。

ジュニアオーケストラは第8期を迎え、週に1～2回の練習、依頼があれば演奏会に出向くときがある。

■ 実施に当たっての工夫

ワクワククラブでは年間10回を計画し、3年生以上の登録制で行っている。バス遠足を兼ねるときには全学年に追加募集を行い一人でも多くの参加者を募っている。

料理教室は前年まで単発的に実施していたものを年3回計画し、全学年で募集した。

参加しやすい単発的な教室も実施。大人数参加型のワクワク合宿やクリスマスパーティーにも力をいれた。

ワクワク合宿では、大学生ボランティアの子ども達と近い世代の方に来ていただき元気に関わってもらった。

■ 事業の成果

ワクワククラブや料理教室では、毎回違ったことの体験ができるので楽しみとなり、参加率が良かった。

ワクワク合宿や子どもとサンタの夢パーティーは、小学校1年生から6年年生の参加があり、高学年が低学年の子ども達の世話をしてくれて、人間性や社会性を育むことができた。

自治会やPTA役員等の協力を得て実施している教室があり、地域の交流もできた。

ジュニアオーケストラでは、楽器を演奏することにより一人一人が忍耐力・存在感・達成感が得られ、練習回数も多いため一年間の成果が見え、次へと繋がっていった。

■ 事業実施上の課題

指導者の確保。マンネリ化。ワクワククラブでは難しいところがあり手伝うことが多い。指導者の補助となる人が必ず必要。

料理教室の場合、低学年には危ないところがあり、指導が難しい。

スポーツ少年団や習い事をしている子が多いため、参加者が限定されている。

■ その他

バス遠足は人気があり、「信楽の陶芸絵付け体験」と「日野畜産センターでの動物ふれあい体験」の2回を実施した。

難しい教室の中に楽しみもあり、保護者の方にも喜ばれた。



【温度計作り】



【カッコー笛作り】

■ 野洲市地域子ども教室【北野小学校区】

■ 野洲市	
■ 活動名 北野学区地域子ども教室 「北野っ子フレンドリークラブ」	
年間開催日数	23日

コーディネーター数	1人
土曜教育推進員数	23人
子どもの平均参加人数	26人

■ 活動の概要

北野学区青少年育成会が年間計画を立案し、北野小学校を通して参加者を募集し、主として土曜日の9時30分から11時30分までの約2時間、北野学区青少年育成会役員がコーディネートし、北野学区青少年育成会が委託した土曜教育推進員と北野学区青少年育成会役員が協力して教育及び安全管理を実施している。

平成26年度実施の科目と回数は次のとおりである。

グラブゴルフ：2回、絵画：1回、昔遊び：1回、オセロ：3回、囲碁：2回、将棋：3回、料理：4回
お菓子作り：2回、工作：1回、パソコン：4回

■ 実施に当たっての工夫

できるだけ参加者一人ひとりに寄り添い語りかけるよう配慮した。
同じ内容にかたよらないよう、子どもたちが興味を持ち続けられるように内容を考えた。

■ 事業の成果

子どもたちの明るく楽しそうな雰囲気をもって、子ども居場所づくりを目的とした地域子ども教室の成果と考えている。
異学年での教えあう姿が見られ、上学年の児童には責任感が出てきたように感じられた。

■ 事業実施上の課題

子どもたちに魅力のある活動の掘り起しとその活動を推進するコーディネーターの維持補強が今後の課題である。
低学年の児童については保護者の送り迎えを依頼しているが、安全面での配慮は今後も必要である。
参加者の確保が課題であるとする。

■ その他

特徴ある活動事例を動画にして、関係者が閲覧できるようにすれば、推進員のスキルアップに有効と考える。



【 絵画教室 】
(平成26年6月28日)



【 オセロ教室 】
(平成26年10月11日)

野洲市地域子ども教室【中主小学校区（中里）】

■ 野洲市	
■ 活動名	
中主地域子ども教室	
年間開催日数	20日

コーディネーター数	1人
土曜教育推進員数	3人
子どもの平均参加人数	8人

■ 活動の概要

茶道クラブは月1回、裏千家の作法を学ぶ。

手芸クラブは月1回、糸の止め方など初歩から学び、簡単な作品作りを行っている。

■ 特徴的な活動内容

茶道クラブは継続的に行っているため、小学生から中学生になっても参加してくれている子ども達もいる。

手芸クラブは募集人員を10名と少なくしたため、先生がひとりひとりに丁寧に対応できていることと、その子個人の能力に合わせて、作る作品を変えて下さっている。

■ 実施に当たっての工夫

茶道クラブは子ども達にとって、出されるお茶菓子は楽しみのひとつになっています。そこで、本来ではありえない事ではありますが、季節に合わせて、例えば12月の実施日にはクリスマスにちなんで、ショートケーキをお茶菓子にしたりしています。

手芸クラブの募集人員をあえて少なくし、少人数の子どもにきめ細かな指導ができるように配慮した。

■ 事業の成果

中学生が、小学生のまだ習って日の浅い子ども達に教えてあげたり、自然な形で教え合いが生まれつつあり、お互いに、とてもいいことであった。

作品が出来上がった時に嬉しそうにする子ども達を見ると、物を作ることの喜びを少しでも感じてもらえたと思う。

■ 事業実施上の課題

新しく入ってくる子ども達が少なくなってきたことと、新入者とベテラン者で、教える事に開きができてしまい、教える側が大変な部分が少しある。

実施時間を2時間としているのですが、子どもにとって2時間集中してやる事はかなり難しく、休憩しながらゆっくりやるよう先生も指導している。

特に低学年の子どもに対しては、集中力を持たせ、飽きさせないように十分内容を検討することが大切である。



【茶道教室】



【手芸クラブ】

■ 野洲市地域子ども教室【中主小学校区（兵主）】

■ 野洲市	
■ 活動名	
野洲市地域子ども教室 兵主学区	
年間開催日数	34日

コーディネーター数	2人
土曜教育推進員数	2人
子どもの平均参加人数	20人

■ 活動の概要

小学生を対象に土曜日や日曜日に次のような教室を開催している。

- ・おやつ作り教室
- ・茶道クラブ
- ・華道クラブ
- ・小物作り教室
- ・ひょうず収穫祭
- ・夏休みこどもクッキング教室

■ 特徴的な活動内容

小学1年～6年生までが毎回違う内容の教室を体験することができ、子どもたちも参加を楽しみにしている。

■ 実施に当たっての工夫

子どもたちが仲良く楽しく安全に遊べるように配慮している

応援が必要な時は、自治会にも依頼しており、地域全体で子どもたちを支えている。

自治会長や地域の役員の方には普段からの参加を依頼しておりボランティアとして協力していただいている。

■ 事業の成果

異学年の子どもたちが1年を通じて仲良くいろいろな教室を体験することで互いを思いやる気持ちが生まれる。

1年間を通じて、子ども達の成長がみられる。

子どもたち自身がすごく楽しみにしており、平均参加率も高い。

■ 事業実施上の課題

教室を手伝ってもらえるボランティアの方が少ない。もっと参加してもらえるような工夫が必要と考える。

親子で参加する教室をしようと思うが、保護者が子ども達を数時間みてもらえるという感じなので、実施が難しい状況である。

人気がある教室は2日程で定員が一杯になり、もっと募集人数を増やしたいが、手落ちがあるといけないので、35名程度で抑えている現状である。

異学年同士であっても仲良く同じ活動ができるように、内容を工夫することが大切である。



【リサイクルペーパーアート体験教室】



【茶道体験教室】

■ 湖南省における土曜日の教育支援の取組

■ めざす姿

子どもが日ごろの学校での学習をさらに深めたり、もっと知りたい、学びたいという意欲を掻き立てたり、実社会で役立つ力として定着させたりすることは重要である。そこで、土曜日や長期休業期間に、地域の大人や卒業生（中高連携、小中連携）と触れ合いながら学習や体験活動ができるプログラムを充実させ、学ぶ意欲を高める機会を提供する。子どもの教育活動に地域の人に関わることで、教員とはちがった視点から子どもを多面的に見ることができ、その情報を教員と共有することで学校教育に生かすことにもつながる。また、地域と連携した持続可能な仕組みづくりのために、コーディネーターのコーディネート機能を強化していく。

■ 本年度の活動

実施校	開催日数	活動場所	主な内容
石部小学校	10日	学校、まちづくりセンター	学習の発展、学力補充
三雲東小学校	10日	児童館	学力補充
菩提寺小学校	7日	学校、まちづくりセンター	学習の発展、学力補充
菩提寺北小学校	7日	学校、まちづくりセンター	学習の発展、学力補充
岩根小学校	22日	まちづくりセンター	学力補充
下田小学校	7日	学校	学力補充
水戸小学校	13日	学校、まちづくりセンター	学力補充
甲西北中学校	19日	学校	学力補充
日枝中学校	13日	学校、校区小学校	学習の発展、学力補充

■ 本年度の成果

- ・ 子どもの状況や地域の実情に合わせて、9教室がそれぞれ特色あるプログラムで実施した。特に多世代交流（地元の大人や中学生、高校生、大学生との交流）はコーディネーター間の情報交流の中で練り上げられた経緯があり、子どもたちの学習や体験活動を豊かにすることができた。
- ・ 学習の発展として遊びを通じた体験活動や学習の場を地域が用意できることは、地域に子ども育ての意識が高まりつつあることを表すものである。
- ・ まちづくり協議会等の協力を得られたことは心強く、さまざまな人間関係に支えてもらっていることを、子どもたちが実感する場となっている。
- ・ 教育推進員（教育支援ボランティア）の力は学校教育にとっても強みである。

■ 今後の課題

- ・ プログラム内容は大人からの押しつけではなく、子どもが何を求めているのか（必要としているのか）を見極めることが重要であるが、計画立案、事前準備に多くの時間がかかる。
- ・ 推進員の確保が難しい。近隣の大学と連携するシステムがつくれるのが望ましい。
- ・ 中学校は部活動との関係があり実施日の調整が難しい。
- ・ 子ども対象の保険料や教材費などへの財政的な裏付けがなく、参加者負担にならざるを得ない。
- ・ 保護者の関心は残念ながら低く、興味を示す親と無関心な親と二極化されている。子どもの学力向上につながる取組であることを周知し、保護者の関心を高める働きかけが必要である。

■ 地域の方々と一緒に、普段教室では勉強できないことに積極的にチャレンジして、興味関心を広げよう！！

■ 湖南省	
■ 活動名	いしべっ子土曜教室
年間開催日数	10日

コーディネーター数	1 人
土曜教育推進員数	7 人
子どもの平均参加人数	8 人

■ 活動の概要

- ・郷土資料の学習により、郷土の知識を深め、郷土を愛する心を培う。
- ・「聞き取る→まとめる→発信する」の一連の学習により、思考力・判断力・表現力を高める。
- ・下学年に説明するという学習を通して、自信をつけ、自尊感情を高めていく。
- ・身近な生活と科学の関係に着目し、科学技術の価値を知り、それへの興味関心を高める。

■ 特徴的な活動内容

①「郷土資料博士になろう！！」

- ・道具を分類しよう
- ・道具の名前、どのように使うのか調べよう
- ・調べたものをまとめてみよう
- ・昔の道具を実際につかってみよう



②「わくわく科学実験教室」

- ・電池を作ってみよう
- ・色の化学変化を楽しもう
- ・電磁石を作ってみよう
- ・電流・電圧を測ってみよう



■ 実施に当たっての工夫

- ①・事業をするにあたり、材料費、実験用具費を小学校校区のまちづくり協議会に要請し、援助をいただいた。
 - ・個人の講師をお願いするのではなく、地域の団体に依頼し、活動の一環として協力いただいた。
 - ・琵琶湖博物館を訪れ、郷土道具を使っている体験をさせてもらい、子どもたちに教えている方法を教えていただき、事業に臨んだ。
 - ・資料をまとめるにあたり、夏休みの課題の「社会科作品展」に学年ごとに分かれ、グループ作品として応募した。
- ②・実験は、子どもたちにさせることを考え、危険のないもので、子どもたちが興味を持ちそうなものを選んだ。
 - ・実験の結果がなぜそうなるかを説明するように心掛けた。
 - ・子どもたちが興味を持ちそうな、実験に関連した話題も話した。

■ 事業の成果

- ①・昔、家にあり使用していた道具でとても懐かしかったと講師の方も喜んでくださった。
 - ・手を使い、身体を使って、昔の道具を使う体験を通して、昔の生活の大変さを感じることができた。
 - ・今の時代のありがたみを考えるよい機会となった。
- ②・こちらの予想外のところで面白がったり、楽しんだりしていたことを知った。
 - ・小学生には難しいだろうと思われた式や法則に関し、よくはわからないものの興味をもったようにうかがえた。
 - ・子どもたちの理科が離れ進んでいると言われている中で、多少でも興味を持ててもらえたのではないかと思います。

■ 事業実施上の課題

- ・事業を計画する際に予定していた参加人数に達せず、次年度の募集の際には子どもや保護者に対しアピールが必要だと感じた。
- ・講師の方と事前打ち合わせを重ねたが、当日の準備にかなり時間がかかったので、前日準備が必要だと思った。
- ・科学実験教室では、実験の用具や材料に費用がかかり、今回はまちづくり協議会より援助を得られたが、今後の費用をどうするかは課題である。
- ・今年度から始めた土曜日事業の取組を、次年度にどう繋げていくか、講師の方と年間を見通して一定の活動を計画していかなければならないと考える。

■ 学べる場の提供 — ひがしっこ教室 —

■ 湖南市	
■ 活動名	ひがしっこ教室
年間開催日数	10日

コーディネーター数	1人
土曜教育推進員数	5人
子どもの平均参加人数	11人

■ 活動の概要

- 目的
 - ・ 家庭における学習環境・教育力の課題からのニーズに応え、学習の場を提供する。
 - ・ 児童の学習習慣の定着を図る。
 - ・ 学力補充（つまづきを放置せず、「分かった」に変える補助）の機会とする。
- 場所 三雲児童館和室
- 期間 平成26年7月～12月
- 学習内容 宿題や課題に取り組む補助、ドリル学習
- 参加児童 延べ112人

	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	第7回	第8回	第9回	第10回	合計
参加人数	6	14	6	9	5	14	12	15	15	16	112

■ 特徴的な活動内容

- 毎回の学習のめあてを自分で決めさせることで、主体的な学びの場であることを意識づけた。
- 机の準備・片付けや終了後の掃除もすることで、異学年集団としての学びを意図した。

■ 実施に当たっての工夫

- ・ 毎回の学習の最後に、みんなで各自のめあての振り返りを発表させ、拍手で互いの頑張りを認め合う時間を設けたことで、次の回のやる気に繋げるようにした。
- ・ その日分からなかったところや間違えてやり直したところを推進員と確認し、次の日にもその復習から始めることを続け、学習の定着を図った。
- ・ 読書用に本を準備したり、休憩時間に読み聞かせをするなど、メリハリをつけて学習に集中できるようにした。
- ・ 予定していた課題を終えた児童も残り時間を有効に使えるよう、学年に応じたドリル等を準備しておいた。



■ 事業の成果



○ 参加した子どもの声から

- ・ ひがしっこきょうしつにきて、いっぱいべんきょうできた。しゅくだいがいっぱいできてよかった。らいねんもやってほしい。
- ・ 家ではあんまりしゅくだいができなかったけど、じどうかんではできた。
- ・ しゅくだいがすすむのがうれしい。
- ・ 家では、やる気がなくて、全然できないけど、東っ子教室ではやる気が出て、勉強がいっぱいできたのでよかったです。

○ 保護者の声から

- ・ 仕事のため、十分勉強を見てあげられないので、東っ子教室を実施して頂き、子どもも少しずつでも勉強を頑張ることができてよかったです。ありがとうございました。
- ・ 家にいるとなかなか勉強に取り組む姿勢に入れないんですけど、ひがしっこに行っている間は結構集中してドリルなどに取り組めたようで、行かせて良かったと思いました。
- ・ 家で朝から勉強すると、すぐにダラダラしたり、集中力がなくなってしまう。東っ子教室だと他の子もいるので、楽しかったようです。また、このような教室を開いてほしいです。

■ 事業実施上の課題

- 推進員の確保
 - ・ 推進員については、平素から本校児童に関わる機会の多い方の中から、かつ、活動の目的の遂行が可能な人選を考えた。ここよくお受けいただく方が多かったが、実際に開催日程が決まると各推進員の予定との調整が難しく、毎回の必要人数を確保することが難しかった。
 - ・ また、予算の枠の中で、推進員の参加状況によって謝礼単価が変わる状況も心苦しく感じた。

■ しんどい思いを共感し、学習の基礎・基本の定着をめざす 岩根小土曜教室

■ 湖南市	
■ 活動名	岩根小土曜教室
年間開催日数	22日

コーディネーター数	1人
土曜教育推進員数	15人
子どもの平均参加人数	5人

■ 活動の概要

子どもたちの学力の二極化が進んでいる、しんどさを抱える子どもたちを支える地域のつながりも薄れてきている現状から、平成22(2010)年度から、学習面で課題のある子どもたちが地域の力を活用した学習支援を受ける場として「土曜教室」を試行期間を経て開設した。地域の人材の力を借りることで、子どもを支え見守る存在が増え、一人ひとりの課題に応じた、きめ細かな学習支援を子ども一人に推進員が1名のマンツーマン型で行う中で、子どもたちも少しずつではあるが、自らの課題を克服し、自分の学びを積み上げていけるよう取り組んでいる。

- ・対象…抽象的な学習が入り学習の基礎・基本の定着が壁となることの多い小学校3年、4年児童
- ・実施会場…岩根まちづくりセンター2階大会議室、児童会議室、研修室（所在地：〒520-3252 湖南市岩根 1155-1）
- ・推進員…学校運営協議会理事長、教員O.B（内一人が塾長）、大学生、コーディネーター、校長、教頭

■ 特徴的な活動内容

- 1 毎回の基本プログラムや時程を一定にして、推進員が実施日に入れ替わっても児童が安定した活動ができるようにしている。
 - ・朝の会 9:30～9:50 あいさつ みんなの時間…推進員が交代して行う。例）ことば遊び、脳トレーニング等
 - ・1時間目 9:50～10:30 国語または算数
 - ・休み時間 10:30～10:40 トイレ お茶を飲む 学習カルタや折り紙 等
 - ・2時間目 10:40～11:20 国語または算数
 - ・終わりの会 11:20～11:30 後始末 連絡 あいさつ
 - ・推進員会議 11:30～12:00 指導記録ファイルへの記入 指導の内容と子どもの学習の様子の報告
次回の当該児童が取り組む内容や課題の協議と確認 連絡
- 2 各期の後半から児童が選択した読み物の音読練習を開始し、各期の最終日には「音読発表会」を行っている。その際、児童推進員、参観者等が、当該児童の音読発表で①声の大きさ②読む速さ③気持ちを込めて読めたかの観点から、「よかったところ」、「直した方がよいところ」を音読発表会カードに記入し、発表後交流して評価と賞讃を行っている。
- 3 毎回、児童の当番を決めて、挨拶、スピーチなどをしっかりできるように取り組み、人前で話すことにも自信が持てるようにしている。

■ 実施に当たっての工夫

- ・学校は2期制であるが、第Ⅰ期（5月～7月）第Ⅱ期（10月～12月）第Ⅲ期（1月～3月）の3期制で行っている。
- ・1:1対応ができる児童数を家庭環境の状況、児童本人の学習状況、保護者の願いと児童の学習意欲が合致していること等から考慮して選んで参加児童を決定している。（参加への案内は、すでに少人数で学ぶ機会のある特別支援学級児童を除いて、通常学級在籍の3年、4年児童に行っている。）
- ・児童が帰った後、推進員会議を行っている。各自が担当した子どもの指導記録ファイルへの記入、行った指導の内容と子どもの学習の様子の報告、次回の当該児童が取り組むべき課題と取り組ませる内容の協議と確認を行っている。子どもの学習状況に合わせて、国語科、算数科の当該学年の内容より一学年ないし二学年の内容に下げて学習内容を決め、必要なプリントやドリルを使った学習を進めている。



■ 事業の成果

- ・子どもたちが土曜教室の学習で得た力を、自分の教室の国語や算数の時間に積極的に挙手して発表したり生き生きと音読したりする場面も出てきている。
- ・大学生の中で教員をめざしている推進員は、この土曜教室の経験を活かし、実際に現在、県内の教員として活躍している者がいる。湖南市出身の教員を育てる場にもなっている。

■ 事業実施上の課題

- ・地域の子どもたちのためならという思いをもった経験豊かな教員O.Bと、地域の大学生にバランスよく指導にあたっていたいただいている。今後も継続させていくには、このようなよい人材確保と推進員との綿密な連絡調整が必要である。



■ 先輩や地域の人が先生に

■ 湖南省	
■ 活動名	菩提寺学区土曜日事業
年間開催日数	7日

コーディネーター数	2人
土曜教育推進員数	2人
子どもの平均参加人数	31人

■ 活動の概要

学校支援地域本部「苦っこを育てる会」主体の事業とせず、菩提寺まちづくり協議会の活動の一環と位置づけた。活動内容によっては、隣接校である菩提寺北小学校と合同での開催も実施した。そのため、菩提寺まちづくり協議会と菩提寺小学校、菩提寺北小学校の3者合同実行委員会を設け活動内容、事前準備等の打ち合わせを数回開催実施した。

■ 特徴的な活動内容

家でひとりで過ごす休みの日に、友だちと一緒に学習し体験することで、学校の授業だけでは学べない事を仲間と一緒にできた。

1. 社会科発展・・・親子で歴史探索（地元の歴史を知ろう） 2校合同 6/14(土)
2. 夏季勉強会・・・夏休みの課題に取り組む 7/28(月) 8/11(月) 8/25(月)
3. 理科発展・・・ペットボトルロケット製作教室 2校合同 10/11(土)
4. 図工科発展・・・年賀はがきを書こう 12/13(土)
5. 書写発展・・・書き初めを書こう 1/6(火) 予定

■ 実施に当たっての工夫

- ・各活動前後に実行委員会を開き、まちづくり協議会を中心に動いた。活動の事前当日準備をまちづくり協議会と連携し行った。
- ・コーディネーターは、参加者の把握、ボランティアの手配、当日のサポートを行った。
- ・ボランティアを募集する際、中学生への呼びかけを中学校のコーディネーターに要請し、中学校と連携した事業とした。

■ 事業の成果

- ・ボランティアの確保にあたり、中学校に相談した結果、中学生の協力を得ることができた。本校卒業生も多く、参加した児童たちとのコミュニケーションも良好だった。小中連携の足がかりになったように思う。大変多くの中学生のサポートは、子どもたちにとって身近な先輩であり、かつてともに登校もし、よく見かけた先輩でもあったので信頼し、安心して側に居てもらえる存在であった。さらに、中学生ボランティアの子どもたちへの優しい接し方や機転を利かせた言動に今後の菩提寺地域の担い手を育てる契機となったものと思われる。
- ・この事業を通じて、菩提寺小と菩提寺北小、甲西北中学校のコーディネーターのネットワークが充実し3校の学校長のリーダーシップにより連携が密になり、小中連携と地域連携による子どもの学びの場が実現した。
- ・菩提寺まちづくり協議会にこの事業の推進役をお願いしたことで菩提寺のまちづくりに子どもが参画する視点が見いだされた。まちづくり協議会の人材育成の事業として、今後も充実していただけるようである。

■ 事業実施上の課題

基本は活動を土曜日に実施するため、スポーツ少年団等で忙しい高学年の参加が難しいように思われる。子どもたちが興味を持ち、参加しやすくする工夫を考える必要がある。さらに、子どもが参加しやすくするための工夫をする必要がある。

また、この事業のために教材費や子ども対象の行事保険への加入のため菩提寺まちづくり協議会にご負担いただいた。今後、参加者が増加することをも見越して、対応策を確かにする必要がある。

■ その他

来年度は、菩提寺小学校区に新しくコミュニティーセンターができる。この土曜日事業はまちづくり協議会が中心になって、2校（菩提寺・菩提寺北小）の活動拠点を一カ所にまとめ運営できるよう計画を進めている。



【中学生に教わって夏季勉強会】



【中学生と一緒にペットボトルロケットを制作中】

■ 甲西北中学校・菩提寺小学校・菩提寺北小学校 ～地域の子どもが繋がる～

■ 湖南市	
■ 活動名	菩提寺学区土曜日事業
年間開催日数	7日

コーディネーター数	1人
土曜教育推進員数	5人
子どもの平均参加人数	35人

■ 活動の概要

菩提寺学区には、菩提寺小学校と菩提寺北小学校の2校がある。その2校で協力して土曜日事業をすることとし、菩提寺まちづくり協議会にその支援をお願いした。それと同時に、菩提寺まちづくり協議会土曜日事業担当3名、両校校長・教頭・コーディネーター、ボランティア代表とで、菩提寺学区土曜日事業実行委員会を作り、5月より企画、運営にあたった。

■ 特徴的な活動内容

活動は6月から翌年1月までに7回行った。

☆第1回	6月14日(土)	菩提寺の歴史散策	参加者	親子 6組	ボランティア	5名	実行委員	12名
第2回	7月28日(月)	わくわく学習教室	参加者	53名	ボランティア	22名	実行委員	3名
第3回	8月11日(月)	夏休み絵画教室	参加者	53名	ボランティア	9名	実行委員	3名
第4回	8月25日(月)	わくわく学習教室	参加者	27名	ボランティア	13名	実行委員	3名
☆第5回	10月11日(土)	ペットボトル飛行機教室	参加者	親子 15組	ボランティア	67名	実行委員	10名
第6回	12月13日(土)	年賀状作り教室	参加者	32名	ボランティア	17名	実行委員	4名
第7回	27年1月6日(火)	書きぞめ 書道教室	参加者	予定				

■ 実施に当たっての工夫

両校一緒に行ったのは、第1回の「菩提寺の歴史散策」、第5回の「ペットボトル飛行機教室」で、中学校で一緒になる両校の子どもたちが交流することを目的の一つとした。すべての活動で、中学生のボランティアを中学校のコーディネーターに要請した。その他の第2、3、4、6、7、回は各学校で活動したが、プログラム内容は同じものを行った。



【 菩提寺歴史散策 】



【 ペットボトル飛行機教室 】

■ 事業の成果

菩提寺まちづくり協議会の支援で菩提寺学区の小学校2校で始めた土曜日事業であるが、甲西北中学校の協力も得て、毎回中学ボランティアが多数参加してくれた。地域の小小連携から小中連携へと、広がりつつあり、来年度からの企画も幅がでると感じた。

また土曜日や学校の長期休業時に、子どもたちに有意義な時間と場所を与えることができ、楽しみながら学習意欲を引き出させる効果もできた。

■ 事業実施上の課題

今年度は、初めての土曜日事業の取組で、菩提寺まちづくり協議会、菩提寺・菩提寺北 両小学校とも手探りで企画運営となり、プログラムの内容の把握やボランティアへの伝達などが、スッキリといかなかった部分もあった。来年度からは、菩提寺地区に新しいコミュニティセンターが新築開館するので、その場所を核に、菩提寺まちづくり協議会が主導でさらに甲西北中学校・菩提寺・菩提寺北小学校が連携した土曜日事業を行う予定である。

■ その他

菩提寺まちづくり協議会ホームページ <https://www.bodaiji.org/>

『地域の力で下田っ子を育てよう!!』 ～ しょうサマースクール 2014 ～

■ 湖南市	
■ 活動名	しょう サマースクール 2014
年間開催日数	7日

コーディネーター数	2人
土曜教育推進員数	2人
子どもの平均参加人数	30人

■ 活動の概要

下田小学校では、昨年度より夏休みの勉強会として「しょうサマースクール」を実施してきたが、今年度からは、土曜日教育支援として実施し、内容についても「夏休みの宿題」を終わらせるためだけでなく、「学力向上」につながるような内容にしようということで、**どんどんコース**として「しょう算数検定」を、**じっくりコース**として「夏休みの宿題会」を企画・実施した。

■ 特徴的な活動内容

「しょう サマースクール」では、学習指導のボランティアを地域の学生を中心にお願ひし、特に日枝中学校に協力をあおぎ、数名の生徒にボランティアとして参加してもらった。

他にも、参加児童が安全に通えるように地域の方に立ち番をしていただく、学生の学習指導ボランティアが少ないときは数名の保護者が学習指導にあたるなど、様々な方にかかわっていただいた。

《実施日時》 平成26年8月6日（水）～8日（金）、18日（月）～21日（木） 計7日間

『どんどんコース（しょう算数検定）』

・前期、後期の2回にわけて実施

《スケジュール》

1日目 プレテスト、算数プリント

2日目 プレテストの間違い直し、検定の練習

3日目 本テスト、おたのしみ

（以上の3日間を2回実施）

最終日 結果発表（認定式）、おたのしみ

『じっくりコース（夏休みの宿題会）』

1日目から6日目まで宿題をメインに勉強をする。

《スケジュール》

1・2日目 夏休みの宿題会

3日目 夏休みの宿題会、おたのしみ

4・5日目 夏休みの宿題会

6日目 夏休みの宿題会、おたのしみ

最終日 修了式、おたのしみ

■ 実施に当たっての工夫

- ① サマースクールの各日程で、かわるボランティアが異なることがあるので、開始前に必ずミーティングをおこなうようにした。
- ② 参加児童が多かったので、学年ごとの参加人数をみながら、教室を2か所に分けた。
- ③ 参加児童4,5名ごとにボランティア1人というように担当を決めた。
- ④ 参加児童、ボランティアともに名前と呼べるように、名札をつけるようにした。
- ⑤ 「しょう算数検定」では、プレテストはひとつ前の学年の問題から始めるようにした。
（例）6年生は5年生の問題から始める。1年生は1学期の復習から。
- ⑥ 「どんどんコース」「じっくりコース」とともに最終日に認定式・修了式をおこない、認定証書・修了証書を渡した。
最終日に参加できなかった児童には2学期に担任から渡してもらった。



■ 事業の成果

- ① 地域の中学生や高校生に学習指導をしてもらうことで、交流の機会が生まれ、地域の中学校や高校に興味を持つようになった。
- ② 名札をつけることで、名前を覚えやすくなり、親睦も深まった。
- ③ 担当を決めて学習指導にあたったことで、児童も質問をしやすくなり、集中して学習を進めることができた。
- ④ 「しょう算数検定」のプレテストをひと学年前の問題から始めたことで、児童の今の実力がわかり学習を進めやすかった。
- ⑤ 「しょう算数検定」の学習を進めていく中で、まだ学校では教わっていない問題もあったが、中学生・高校生に教わることでできるようになり、自信を持つことができ、苦手意識も薄くなったように思う。



■ 事業実施上の課題

- ① 開始前にミーティングをおこなうようにしたが、時間を多くとることができなかったため、細かい打ち合わせができなかった。
- ② 参加児童に対して学習指導ボランティアが足りないことがあった。
- ③ 問題のプリント等を事前に用意はしていたが、何回も参加している児童にはもの足りなくなってしまうことがあった。
- ④ 問題プリントの準備など事前の準備が大変だったので、今後は準備段階からボランティアにかかわってもらえるよう考えたい。

■ 土曜日事業 ～みとっこ☆宿題応援隊の取り組み～

■ 湖南省	
■ 活動名	宿題応援隊
年間開催日数	13日

コーディネーター数	2人
土曜教育推進員数	18人
子どもの平均参加人数	20人

■ 活動の概要

- ①夏休み、冬休みの宿題応援隊を結成。夏休みには子どもたちに宿題を教える先生役として地域の中学生に参加してもらった。
- ②湖南省と国際協会が主催する水戸小の外国籍児童を対象にした勉強会に応援団から先生として参加した。
- ③小・中連携として中学校区で冬休みの宿題である書き初め教室を開催。地域の中学生に先生役として参加してもらった。

■ 特徴的な活動内容

- ①まちづくり協議会と連携することで、学校だけでなく地域ぐるみの活動とする。
- ②湖南省の人権教育課・国際協会、中学校区の教員、地域の大学生と一緒に活動し、外国籍児童とのコミュニケーションを学ぶ。
- ③同じ中学校区で一つの事業に取り組む。

■ 実施に当たっての工夫

- ①小学生が参加しやすい日程や中学生が参加しやすい時間帯などを考慮した。小学生へは早めに案内を配布し参加を募り、まちづくり協議会と中学校へ参加人数を速やかに報告した。教える内容を中学生と事前に打ち合わせをし、時間内に宿題のドリルを終えた子どもにはプリントや問題を用意して対応した。
- ②日本語の理解が難しい子どもに丁寧にゆっくり説明する必要がある。集中できるように1時間勉強したあとは1時間交流の時間を設け、ゲームなど楽しみながら取り組んだ。
- ③三校のコーディネーターが集まる時間をできるだけ設け、事業の目的についての打ち合わせと役割分担、当日の流れについてをシミュレーションした。

■ 事業の成果

年の近い中学生に先生役をしてもらうことで、子どもたちは素直に楽しく学習しながら、自分の苦手な問題を解いて自信をつけていた。これまで小学校や応援団と関わりのなかった地域の方と新たにつながることができ、子どもたちの現状や宿題応援隊を理解していただき、地域の人材発掘ができた。冬休みの書道教室では、同じ中学校区の子ども同士が日本の伝統文化である書道に取り組み、顔見知りになる貴重な機会となった。中学校や地域のセンターに足を運ぶよい機会となり、自分もいつかは教えることもできるんだと中学生を目標にする姿が見られた。

■ 事業実施上の課題

夏休みとはいえ、小学生も中学生も行事や部活、勉強などで忙しく日程調整が難しかった。子どもの集中力が続かなくて遊びだしてしまうことがあったので、時間設定の見直しが必要。高学年の内容によっては教える中学生が戸惑う姿があったので大人のサポートが必要だが、大人が手を出し過ぎると中学生の出番をとってしまうのでコーディネーターが間に入って調整する必要がある。悪天候の日があり、行き帰りが心配であった。

■ その他

今年はドリル中心で行ったが幅広い学習内容も取り入れて、宿題応援隊の活動の充実を図りたい。学校ではゆっくり対応できないところを個々のペースに合わせて教えてあげることができるし、子どもの反応から教わることも多いので学び合いの場になっている。

(参加者の感想)

- ・かん字の書き順を教えてもらったよ。よくわかったよ。(小2)
- ・中学生が来てくれたから楽しかった。もっとたくさんいた方が楽しそう。やさしく教えてくれたからよかった。(小6)
- ・もっと緊張した雰囲気かと思ったけど、楽しくて来年も来たいなって思いました！(中1)
- ・初めは小学生も私も緊張してあまり話せなかったけど、休憩時間に遊んだり話したりして、楽しく学習できました。(中1)
- ・楽しみに来ているのでこれからも遠慮せずになんでも言ってください！(土曜教育推進員)



■ 教え学びあう学習支援（小中高連携）

■ 湖南省	
■ 活動名	
甲西北中学校土曜日事業	
年間開催日数	19日

コーディネーター数	2人
土曜教育推進員数	5人
子どもの平均参加人数	20人

■ 活動の概要

今年度は、地域大学生による定期テスト前の補充学習および、地域の高校生による学習支援の取り組みを夏休みに集中させて実施した。1. 2年生を対象とした地域の高校生による学習支援は計12回で、1回の学習会への参加生徒数は平均13名。高校生は1回あたり平均5名で、多い時には13名の高校生が学習支援に来校してくれた。高校生による学習支援では、夏休みの宿題や課題を持ち寄り学習会を実施することができた。

定期テスト前に実施した大学生による学習会では、対象生徒を1～3年として計7回実施した。多いときで40名の生徒が参加し、大学生の参加数は1回の学習会につき平均4名だった。

■ 特徴的な活動内容

高校生による学習支援については、本校出身者（卒業生）が学習支援に来てくれた。しかも、地元の高等学校とあって自分自身の進路を身近なものとして捉えることができた。一方、地域の大学生による学習支援については、より専門的な支援を受ける機会が確保でき、生徒たちの学習意欲にもつながった。

■ 実施に当たっての工夫

対象生徒の参加数を増やすために各部活動単位での参加も認め、より多くの生徒が参加できる環境を整備した。また、支援をいただく高校生や大学生にも男女のバランスを考慮してもらい、参加生徒数の確保に努めた。

学習内容については、高校生および大学生に事前に対象生徒の学年とテスト範囲を伝え、お互いが良い準備をした上で実施できるように配慮した。

学習会の場所は、基本的には対象学年の教室を使用した。参加人数によっては1カ所で開催したり、少人数で開催したりと弾力的な学習形態を取り入れることによって、より効果的、効率的な学習会の実施につなげることができた。

■ 事業の成果

普段、家では一人で学習することが定着していない生徒が、お互いに声をかけあって参加することで継続的な参加が実現できた。また、参加生徒数を増やすために、部活動単位での参加についても可能とした結果、顧問の先生も巻き込みながら学習会を実施することができた。このことは、学校内において横のつながりが増し、他の部活動への波及効果を得ることもつながった。その結果、限られた時間の中で、効果的な学習会を実施することができた。

■ 事業実施上の課題

- ・特に大学生の推進員さんを探すのに地域コーディネーターの苦労があった。学校からも卒業生やその知人を迎って開拓を進めてみたものの、学校生活とのバランスや他のアルバイトとの関係で時間的に難しいケースもあり、参加生徒数に見合った推進員の確保は容易ではなかった。
- ・推進員が大学生ということもあり、生徒のニーズにどこまで応じた学習支援ができていたかという今後の検討課題でもある。

■ その他

地域の大学生や本校出身の地元高校生が学習支援をしてくれる中で、教師と生徒という関係で学習を進めていくのとは違い、より親近感をもって学習会を進めることができた。その結果、教えてもらうことを通して、教える側に立ってみようというところにもつながった。実際、夏休みに3日間、中学校区の小学校へでかけ、中学生が先生役となり小学校の児童に夏休みの宿題のお手伝いをするという機会にも恵まれた。高校生や大学生が中学生に、中学生が小学生に学習を教えることで、学習に対してより理解する力が育まれたように感じる。



■ 地域の人とレベルアップ！

■ 湖南省立日枝中学校	
■ 活動名	
日枝中学校土曜日事業	
年間開催日数	13日

コーディネーター数	2人
土曜教育推進員数	2人
子どもの平均参加人数	20人

■ 活動の概要

自分の住む地域には色々な分野で子ども達の育ちを見守って下さる方がいるということを知ってもらい、その方々にお力を貸していただくことで、生徒たちに課外活動の中で様々な取り組みにまず挑戦してもらうことを目指す。「きっと自分にもできる」という自信が持てないのは経験の不足でありその子の能力によるものではないことに気付いてもらい、自尊心を育む一助としたい。

■ 特徴的な活動内容



「美文字教室」・・・学区内の小学生の書き初めのお手伝いを日枝中生でやってみよう、という声から実現した。小学生の字がより綺麗に書けるようにと中学生はその文字を練習するため地域の文字の達人よりレクチャーを受けた。一緒に筆を持ち筆使いを教える子、用紙を押さえながら応援する子・・・と、その子なりの丁寧な関わり方で小学生達の作品を仕上げていた。あわせて達人には大人の筆ペン教室を地域の皆さんにご指導いただいた。また甲西高校書道部の皆さんをお招きし日枝中の吹奏楽部とコラボで書道パフォーマンスを披露、世代を超えた地域交流が叶った。今年度はさらに『日枝中 今年の漢字』を企画。告知・募集は生徒達に一任し応募用紙の準備から回収まで完璧な仕事ぶりを見せてくれた。小学生への対応への心積もりのほか会場準備や進行など、生徒たちの行動力が光った生徒主体の一大イベントへと内容を深め進化させることができた。



「サマーチャレンジ」・・・夏休みに下田小学校で算数検定に挑戦する小学生に中学生が指導をし、その指導の方法を日枝中学校出身の高校生に教わるという試みを実施した。全日程で一週間にもわたるこの取り組みは、自分が受け持つ子に対してきちんと教えるための観察・分析・シミュレーション・実践とハードルが高く中学生も高校生も最初は参加に不安もあったようだ。しかし、いざ始まってみると、とても丁寧に熱心にどんな説明をしたら理解してくれるか考えてくれた。小学生は中学生に、中学生は高校生に良い刺激を受け自分もこんなふうに凄いとされるようになっていきたい、という憧れを抱いたようであった。この企画に参加してくれた子たちに感想を聞くと「最初は恥ずかしく、教えることも想像以上に難しかったけれど、自分の基礎固めになる部分もあり、これからの学習にも活かせると思う」と、達成感をのぞかせてとても良い表情だった。

■ 実施に当たっての工夫

サマーチャレンジにおいてはあえて日枝中の卒業生である高校生に参加してもらい、日枝中学校に通う子ども達にリアリティのある目標となってもらえることを狙いにした。また、できるだけ積極的に生徒が参加してもらえるよう先生方をお願いをし、委員会活動や部活動の一環として地域活動への参加を組み込んでいただけるようにも取り組んでもらった。

参加してくれる生徒だけでなくその親御さんにも、企画の趣旨や目標を把握していただくよう努めた。生徒が安心し自信をもって参加できるよう親御さんにご協力いただき応援の声掛けとともに温かく送り出していただいた。

大人がどこまで準備をし、どこからを生徒に任せるか、生徒各々の達成感を第一に考えた段取りとなるよう配慮した。

■ 事業の成果

生徒たちは地域の方やご家族からの温かい配慮に支えられ、自分の想像以上の力が発揮できたことで、自分で自分の力に驚いたり感動したりという様子が見られた。またこちらから地域活動への参加に協力をしてもらう際、最初こそ照れはある様子だったが、どの企画も始まると誠実に取り組む姿が見られた。達成感や認められているという安心感からか、自信が湧いた様子が伺え「また助けてね」などの声掛けに対しても笑顔で反応を示してくれたり、「次やる時はもっと〇〇だと良い」など改善策などの提案をしてくれたりする。関わられた地域の方どのの方に尋ねても、生徒たちは今まで持っていた中学生のイメージと違い素直で一生涯懸命だと褒めてくださる。親御さんたちへの事前のお願いによってコーディネーターと目標を共有していただくことで、最初「うちの子で大丈夫ですか？」と言われていた方も活動後のお礼にあがった際には生徒の活躍ぶりに誇りを滲ませ「充実した時間を過ごす姿を見ることができて、声をかけてもらえて感謝しています。」という感想をいただくことができた。

■ 事業実施上の課題

生徒自身が部活や塾などで多忙を極め、参加者の確保が大変難しい。友達同士だと参加してもらいやすいため、部活動や委員会という枠組みでまずは参加してもらい、地域の大人の適切なフォローのもととにかく行動してみること、自身が思っているよりもっと色んなことをできる力を持っていると知ってもらえるよう、さらに取り組みを進めていきたい。そのためには専門的な知識や技能を持つ地域の方々にボランティアとして登録していただけるよう土曜日事業の活動の周知に力を入れていく必要性を感じる。

■ その他・・・<http://www.edu-konan.jp/hie-jh/pindex.htm>

■ 東近江市における土曜日の教育支援の取組

■めざす姿

東近江市では、子どもの生きる力を育成し、地域全体で子どもを守り育てる環境づくりを総合的に推進するために当事業を実施する。

■本年度の活動

蒲生地区地域教育協議会委託により蒲生コミュニティセンターにおいて講座形式での活動を展開

・囲碁・将棋クラブ

囲碁将棋を通してじっくり考えることを身につける。

・くらふと☆デコ

マグカップや写真フレームなどの既製品に紙粘土や様々な材料を使ってデコレーションし、創造力を高める。

・そろばんクラブ

そろばんを使って計算能力の向上を図り、算数の仕組みを理解する。

・蒲生野太鼓わらべ組

和太鼓文化に触れ、演奏技術の向上と集団で演奏する楽しさを学ぶ。

・陶芸クラブ

焼き物の作品作りを通して、子どもの自主性を伸ばす。

・I T キッズクラブ

年賀状や描画などを作成しながら基本的なパソコン操作を学ぶ。

・K I D S F L O W E R

フラワーアレンジメントを通して創造性を高める。

・マックスダンス（初級）

初心者向けのダンス練習を通して基礎体力の向上を図る。

・マックスダンス（中級）

経験者向けのダンス練習を通して基礎体力の向上を図る。

・手話キッズ

手話による会話法や手話歌を習得する。

■本年度の成果

- ・蒲生マックスクラブはこれまでも放課後や休日の児童・生徒の教育活動支援を行ってきた。土曜日の教育支援としたことで活動の目的や内容がより明確になった。

■今後の課題

- ・少子化にともない児童生徒が少なくなる中、スポーツ少年団や子ども会、地域教育協議会の事業など土曜日や休日を中心として活動する団体との活動時間や活動内容などについての調整、バランスが難しいと考える。

■ 蒲生の子は蒲生で守り育てよう

■ 東近江市	
■ 活動名	
蒲生マックスクラブ 「そろばんクラブ」	
年間開催日数	11日

コーディネーター数	1人
土曜教育推進員数	2人
子どもの平均参加人数	6人

■ 活動の概要

- ・そろばんの基本的な使い方を学ぶ。
- ・そろばんを使って計算能力の向上を図り、算数の仕組みを理解する。
- ・そろばんの技能と算数の仕組みを理解することを通して、子どもの学ぶ意欲を高める。

■ 特徴的な活動内容

- ・コミュニティセンターを教室として使用して実施している。
- ・クラブ員によって理解度が違うので個々に対応した学習を行っている。
- ・「できる」「わかる」ことを大切にし、子どもたちの学習に対する意欲を高めている。

■ 実施に当たっての工夫

- ・マックスクラブ発表会などで発表の機会を設けている。
- ・気分転換を図るため、途中で休憩を取ったり、ゲームを取り入れたりしている。
- ・そろばんに集中して学べるように学習の展開を工夫している。

■ 事業の成果

- ・初めてそろばんを習った子が1～2年続けると掛け算・割り算ができるようになり、より興味を持って取り組むようになる。
- ・毎年、継続して教室に参加する子がいる。
- ・そろばんの技能が高まり、算数の理解が深まるほど、学習に意欲的に取り組み集中して学習する姿が見られた。

■ 事業実施上の課題

- ・月1回の活動なので、前回の内容を忘れる子がいる。
- ・自宅で復習をするように指導しているが、徹底させるのは難しい。
- ・集中力を切らさないようにするのが難しい。人によって集中の度合いが様々である。



■ 蒲生の子は蒲生で守り育てよう

■ 東近江市	
■ 活動名	
蒲生マックスクラブ 「くらふと☆デコ」	
年間開催日数	6日

コーディネーター数	1人
土曜教育推進員数	4人
子どもの平均参加人数	12人

■ 活動の概要

- ・マグカップや写真フレームなどの既製品に紙粘土や様々な材料を使ってハンドクラフトやデコレーションをする。

■ 特徴的な活動内容

- ・同じ材料でも仕上りは人それぞれ違うので、出来上がった作品を集め、みんなで鑑賞会を行い、視野を広めている。
- ・保護者にもスタッフとして協力していただいている。(※当番制)

■ 実施に当たっての工夫

- ・時間内に仕上げる集中力を養うとともに子どもたちが興味を持って取組め、満足感を得られる作品づくりを考えている。
- ・まずは創ることの楽しさを知ってもらうということを目的とし、比較的短時間で作成できるパーツ作りから始めるなど工夫している。
- ・達成感プラスアフファを試みる指導をしている。
- ・廃材を利用するなど材料費を安価にするための工夫をしている。
- ・保護者スタッフに、困っている子がいないか、声掛けをしてもらっている。
- ・子どもの良いところを探し、ほめて伸ばす指導を心掛けている。

■ 事業の成果

- ・学年を問わずしっかり人の話が聞けている。
- ・活動に不必要な物は所定の場所に置けるようになった。
- ・活動開始時の姿勢やあいさつ、後始末などもしっかりできている。
- ・質問は手を挙げ、相手の目を見て発言している。

■ 事業実施上の課題

- ・作業を子どもたち自身で進めて欲しいが、作業の進行に個人差があるので難しい。

■ その他

- ・いろんな角度から子どもを見るようにし、人間的な広がりを楽しみにしたい。
- ・子どもの成長に合わせ指導者自身もそれにふさわしい居場所を作っていきたい。



■ 蒲生の子は蒲生で守り育てよう

■ 東近江市	
■ 活動名	
蒲生マックスクラブ 「蒲生野太鼓わらべ組」	
年間開催日数	42日

コーディネーター数	1人
土曜教育推進員数	2人
子どもの平均参加人数	25人

■ 活動の概要

- ・ 基本的な和太鼓の演奏方法を学ぶ。
- ・ 和太鼓文化に触れ、演奏技術の向上と集団で演奏する楽しさを学ぶ。
- ・ 地域の行事等で発表する。

■ 特徴的な活動内容

- ・ 練習はコミュニティセンターで行っている。
- ・ マックスクラブ発表会など地域の行事等で発表している。
- ・ 地域での演奏活動も積極的に行っている。

■ 実施に当たっての工夫

- ・ 初心者向き、中級者向きと別れて習熟度別に練習を行っている。
- ・ 積極的に発表の機会を設け、クラブ員の活動に対する意欲を高めるようにしている。
- ・ マックスクラブを卒業した先輩が後輩を指導するなど縦のつながりも大切にしながら活動している。

■ 事業の成果

- ・ 年度初め（5月）から始めた子が3月の発表会には一人で叩けるようになった。
- ・ マックスクラブを卒業しても、上部組織の「鈴温泉太鼓」に入り、後輩（わらべ組）の指導をしてくれる子がいる。
- ・ 和太鼓を継続して続けている子が多い。

■ 事業実施上の課題

- ・ あたらしい指導者の育成
- ・ 数年続けないと一人前にならないので継続的に参加するクラブ員が多く定員に空きが出ないため、新たな入会者を受け入れることが難しい。



■ 蒲生の子は蒲生で守り育てよう

■ 東近江市	
■ 活動名	
蒲生マックスクラブ 「マックスダンス（初級）」	
年間開催日数	12日

コーディネーター数	1人
土曜教育推進員数	1人
子どもの平均参加人数	14人

■ 活動の概要

- ・ 基礎的なステップやダンスの練習をする。
- ・ 地域の行事や大会に参加し発表する。

■ 特徴的な活動内容

- ・ 初級・中級のクラスがあり、子どものレベルに合った教室が選択できる。
- ・ 地区や市の大会に出場している。
- ・ 積極的に地域の行事に参加している。

■ 実施に当たっての工夫

- ・ 初級、中級のクラスに分かれて子どもたちのダンスのレベルに合わせた活動を行っている。
- ・ 初級クラスにおいては、練習でも発表でもつねに楽しい雰囲気を作るようにし、子どもの意欲が継続するように努めている。
- ・ 発表の場を設けることを通して、メリハリをつけ子どもたちの練習や発表に対する意欲を高めるようにしている。

■ 事業の成果

- ・ 初級からのスタートであるが、年度の途中には発表会に参加できるほど上達した。
- ・ 子どもたちが意欲的に教室に参加している。
- ・ 毎年、次のレベルの教室に参加する人が多く、継続的に行われている教室である。
- ・ さまざまな地域の行事などから多くの出演依頼がある。

■ 事業実施上の課題

- ・ 練習時間が短いため全体の動きを合せるのが難しい。
- ・ ダンスの習得についても、個人差がある。



■ 蒲生の子は蒲生で守り育てよう

■ 東近江市	
■ 活動名	
蒲生マックスクラブ 「マックスダンス（中級）」	
年間開催日数	12日

コーディネーター数	1人
土曜教育推進員数	1人
子どもの平均参加人数	11人

■ 活動の概要

- ・応用的なステップや少し難度の高いダンスの練習をする。
- ・地域の行事等で発表するとともにダンスの大会にも積極的に参加する。

■ 特徴的な活動内容

- ・行事や大会に向けて、目標を持って練習する。
- ・地区や市の大会に出場する。
- ・積極的に地域の行事や大会に参加している。

■ 実施に当たっての工夫

- ・初級、中級のクラスに分かれて子どもたちのダンスのレベルに合わせた活動を行っている。
- ・中級クラスは、明るく声をかけ合うなどのチームの輪を高める雰囲気づくりに努め、より高度な演技に意欲的に取り組めるように工夫している。
- ・発表や大会に出場することを通して、活動にメリハリをつけクラブ員のステージに対する意欲を高めている。

■ 事業の成果

- ・子どもたちが毎回の活動を楽しみにし、積極的に参加している。
- ・次第に子どもたちのダンスレベルが上がり、さらに難しい内容のダンスを希望してくる等、意欲的に活動に取り組む姿がみられた。
- ・地域の行事等から出演の依頼があるとともに大会にも積極的に参加できた。

■ 事業実施上の課題

- ・ダンスの習得に個人差があり、ステージの演技を揃えるのが難しい。
- ・演技をそろえるための時間がたりない。



■ 蒲生の子は蒲生で守り育てよう

■ 東近江市	
■ 活動名	
蒲生マックスクラブ 「ITキッズクラブ」	
年間開催日数	10日

コーディネーター数	1人
土曜教育推進員数	2人
子どもの平均参加人数	4人

■ 活動の概要

- ・パソコンの基本的な操作の習得。
- ・パソコンを使用しての名刺・年賀状づくりを楽しむ。

■ 特徴的な活動内容

- ・パソコンを使用していろいろな楽しみ方ができることを理解するように活動している。
- ・パソコンに向かうだけでなく、はがきでブーメランやプロペラをつくり飛ばす等、子どもたちが興味を持って取り組む活動も行っている。
- ・学習の成果を地域の行事等で発表している。

■ 実施に当たっての工夫

- ・名刺や年賀状など実際に自分で作成することにより、できる喜びや作成の楽しさを味わうことができるようにしている。
- ・パソコンだけでなく、途中でゲームをしたり休憩時間を設けたりと気分転換を図り、子どもたちの集中力が持続するように工夫している。
- ・マックスクラブ発表会など地域の行事等で作品を発表し、活動に対する意欲を高めている。

■ 事業の成果

- ・5月から始めた初心者の子供も秋ごろには個性的な作品が作れるようになっている。
- ・回を重ねるごとに意欲的にパソコンを操作する姿が見られた。
- ・意欲的に自分の作品づくりに取り組むことができた。

■ 事業実施上の課題

- ・備え付けのパソコンが古く新しいソフトの利用が出来ない。
- ・子どもたちの集中力が途切れないための工夫の仕方。
- ・パソコン以外に子どもたちが興味を持って取り組める手立て。



■ 蒲生の子は蒲生で守り育てよう

■ 東近江市	
■ 活動名	
蒲生マックスクラブ 「KIDS FLOWER」	
年間開催日数	7日

コーディネーター数	1人
土曜教育推進員数	5人
子どもの平均参加人数	6人

■ 活動の概要

- ・ フラワーアレンジメントの基礎的な作り方やアレンジの方法などを学ぶ。
- ・ フラワーアレンジメントを通して創造性を高める。

■ 特徴的な活動内容

- ・ じっくりと落ち着いてフラワーアレンジメントに取り組み、創造することを楽しみながら活動している。
- ・ マックスクラブ発表会などの展示コーナーで作品を発表している。

■ 実施に当たっての工夫

- ・ 仲間と和気あいあいと花のアレンジを楽しみながら活動できるように工夫している。
- ・ 作品作りには時間がかかるため、時間内に終わらすため下準備に時間と手間をかけている。
- ・ 活動を通じて、お互いの作品を鑑賞し合うとともにその作品を地域の行事などに展示するなどして、多くの方に観てもらい創作意欲を高めるようにしている。

■ 事業の成果

- ・ 毎年、継続して活動が続けられている。
- ・ 子どもたちのアレンジ力や創造力がついた。
- ・ フラワーアレンジに積極的に取り組み、作品作りを楽しむ姿が見られた。
- ・ 熱心に製作する子どもたちの姿から集中して取り組んでいる様子がよくわかった。

■ 事業実施上の課題

- ・ 決められた時間と予算で充実した内容にするのが難しい。
- ・ 事前の準備にかかる時間と手間を解消するための工夫。



■ 蒲生の子は蒲生で守り育てよう

■ 東近江市	
■ 活動名	
蒲生マックスクラブ 「陶芸クラブ」	
年間開催日数	11日

コーディネーター数	1人
土曜教育推進員数	7人
子どもの平均参加人数	15人

■ 活動の概要

- ・土からの焼き物づくり

■ 特徴的な活動内容

- ・年間で4～5の作品を制作するように活動している。
- ・マックスクラブ発表会などで発表している。
- ・土から作品を作成し、焼きあがってくるまでを楽しめる活動を行っている。

■ 実施に当たっての工夫

- ・作品作りでは、子どもの自主性を尊重するため、できるだけ手を出さないようにしている。
- ・マックスクラブ発表会など地域の行事等で自分が作成した作品を発表し、創作意欲を高められるようにしている。
- ・発表会等で陶芸体験を実施し、その面白さや楽しさをたくさんの子どもたちに体験してもらい、陶芸クラブの活動を積極的に広めている。

■ 事業の成果

- ・陶芸に関心のある子が着実に増えており、毎年一定数の希望者が集まっている。
- ・作陶に積極的に取り組み、作品作りを楽しむ姿が見られた。
- ・体験教室を実施することによって、陶芸に興味を持ってもらうことができた。

■ 事業実施上の課題

- ・制作に個人差があり、早く終わった子や遅い子の対応が難しい。
- ・作陶の作業が中心となるので活動に変化をつけることが難しい。



■ 蒲生の子は蒲生で守り育てよう

■ 東近江市	
■ 活動名	
蒲生マックスクラブ 「手話キッズ」	
年間開催日数	15日

コーディネーター数	1人
土曜教育推進員数	7人
子どもの平均参加人数	6人

■ 活動の概要

- ・ 地元で活動している蒲生手話サークル「ひまわり」が指導者となり活動している。
- ・ 手話の学習を通して聴覚障害者とのコミュニケーション方法を学び、問題や悩みを知ることで聴覚障害者への理解を深める。

■ 特徴的な活動内容

- ・ 地元の聴覚障害者と指導者が協力して学習内容を検討している。
- ・ 手話を覚えるだけでなく聴覚障害者から直接話を聞いて理解を深めている。

■ 実施に当たっての工夫

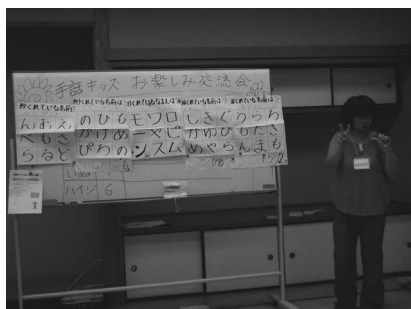
- ・ 子どもたちの状況を見ながら学習内容を組み立てている。
- ・ 毎回、前回の復習をしてから次の課題に進んでいる。
- ・ ゲームなどを取り入れ、楽しく学習できるように工夫している。
- ・ 会話だけでなく手話の唄も練習している。

■ 事業の成果

- ・ 簡単なあいさつが出来るようになり、子どもたちも意欲的に手話を使うようになった。
- ・ 付き添いで来ている保護者の方も一緒に手話を覚えてくれている。
- ・ あかねフェア（蒲生地区の行事）では手話歌の発表ができた。

■ 事業実施上の課題

- ・ 費用を抑えることと子どもたちの理解の状況に合わせるため、資料を手作りしているので準備に時間がかかる。
- ・ 学年で差ができ、同じレベルに合わす事が難しい。



■ 蒲生の子は蒲生で守り育てよう

■ 東近江市	
■ 活動名	
蒲生マックスクラブ 「囲碁・将棋クラブ」	
年間開催日数	11日

コーディネーター数	1人
土曜教育推進員数	11人
子どもの平均参加人数	6人

■ 活動の概要

- ・地域に住む囲碁・将棋愛好会を指導者として、小中学生を対象とした初心者向けの教室を開催している。
- ・囲碁・将棋を通して、子どもたちにじっくり考える習慣を身につける。
- ・共通の趣味を通して、世代間の交流を図る。

■ 特徴的な活動内容

- ・今年度は、4年ぶり開設のクラブである。
- ・囲碁・将棋を通じて世代間の交流を図っている。
- ・共通の趣味を通じて、継続的な活動となるように個に応じた対局を楽しんでいる。

■ 実施に当たっての工夫とおして

- ・集中力を欠かさないよう、休憩を入れたり活動時間を短めにしたりと時間設定を工夫している。
- ・レベルに応じて指導者対クラブ員・クラブ員同士の対局を行い、活動に変化を入れている。
- ・対局において、教えたり、教えてもらったりする等のコミュニケーションを大切にし、世代間の交流が活発になるように工夫している。

■ 事業の成果

- ・囲碁・将棋に、更に深く興味を持ってくれる子が出てきている。
- ・クラブ員が友だちをさそって連れてくるなど、その面白さを他の人にも広げている。
- ・囲碁・将棋を通して子どもたちに落ち着いて考える姿が見られた。
- ・対局を重ねるごとに世代を超えて打ち解け、楽しく対局する姿が見られた。

■ 事業実施上の課題

- ・活動時間（2時間）を通して子どもたちに集中してもらうのが難しい。
- ・活動に変化をつけ、集中力を持続させるのが難しい。
- ・囲碁に興味を持つクラブ員が少ない。



■ 竜王町における土曜日の教育支援の取組

■ めざす姿

町内の小学校に通う子どもたちが、様々な体験教室での活動を経験することにより、異なった年齢の子ども同士および指導者をはじめとした地域の人々との交流を深め、さらに、仲間づくりやそれぞれのクラブに応じた技能を伸ばすことを通して、何事にも挑戦する勇気を育み、自らの可能性を切り拓く「生きる力」を身につける。

■ 運営委員会の設置

委員会名称	公民館子ども教室運営委員会		開催数	2	委員数	10
委員名簿	氏 名	所属・役職等		氏 名	所属・役職等	
	飯村 悟	元小学校長		石崎 邦江	元中学校教師	
	松田 俊二	地域住民		山口 龍三	元小学校長	
	前田 郷司	地域住民		西村 実	地域住民	
	関目 昭彦	地域住民				
	加藤 正隆	元小学校長				
	久保井 美喜子	地域住民				
	西村 淳子	地域住民				

■ 本年度の活動

- ・ 5月10日（土）、今年度の取組みについて ①活動内容の確認 ②親子で参加できる活動の検討
- ・ 1月下旬 今年度の反省および次年度に向けての課題と対策の検討

■ 本年度の成果

子どもたちが様々な学びや文化芸術の体験活動、また、異なった年齢の子ども同士の交流を通して、楽しく生きる力と豊かな創造力を培い、仲間づくりや各クラブに応じた技能を身につけることができた。

■ 今後の課題

- 開講しているクラブによって、参加人数に大きく差がある。
- 特に高学年になるとスポーツ活動に参加される子どもも多く、参加者が限られ、また、開催日程の調整も困難である。

■ こころに響く演奏を！

■ 竜王町	
■ 活動名	和太鼓クラブ
年間開催日数	22日

コーディネーター数	3人
土曜教育推進員数	10人
子どもの平均参加人数	12人

■ 活動の概要

町内の小学校に通う子どもたちが、和太鼓を通し、技能の向上はもちろんのこと、竜王小学校・竜王西小学校両校の異なった年齢の子どもたち同士が発表会等により地域の人々との交流を深め、さらには、何事にも挑戦する勇気を育み、自らの可能性を切り拓く「生きる力」を身につける。

■ 特徴的な活動内容

町イベント等に積極的に参加し、演奏を成功させることにより、何事にも挑戦し、自らの可能性を切り拓く「きっかけ」作りを行う。



【 竜王町文月発表会 】



【 竜王町文化きらめきフェア 】

■ 実施に当たっての工夫

月2回ペースで開講することにより、前回習った内容を忘れることなく次の練習に生かすことができる。
和太鼓指導を生業とした指導者に指導してもらうことにより、技術の向上が図れる。
日々の練習を通して子どもたち同士が教え合うことにより、異なった年齢の子どもたちの交流ができる。

■ 事業の成果

技術の向上が図れたとともに、異なった年齢同士の交流もできた。
発表会に出演し、成功を重ねることによって何事にも挑戦していく力を養うことができた。

■ 事業実施上の課題

子どもたちの地域行事等により、参加者が極端に少なくなる日がある。和太鼓は練習するにもある程度人数がいないと困難である。

■ その他

・子どもの声

発表会に出るためにがんばって練習した。みんなとタイミングを合わせるのが難しかった。

・保護者の声

家に帰ってくると、今日習ったことを楽しそうに話してくれます。
発表会を見るたびに、わが子の上達を実感できてよかった。

・スタッフの声

このクラブを通して、みんなと協力し合いながらひとつの事（曲）に取り組むことの大切さを学んでもらえたと思います。
また、発表会を重ねることにより、自信がつき何事にも挑戦し、成し遂げる力を身につけることができたと思います。

■ いろんな技法を身につけよう！

■ 竜王町	
■ 活動名	
絵画クラブ	
年間開催日数	10日

コーディネーター数	3人
土曜教育推進員数	10人
子どもの平均参加人数	7人

■ 活動の概要

町内の小学校に通う子どもたちが、絵画を通し、技能の向上はもちろんのこと、竜王小学校・竜王西小学校両校の異なった年齢の子どもたち同士が地域の人々との交流を深め、さらには、何事にも挑戦する勇気を育み、自らの可能性を切り拓く「生きる力」を身につける。

■ 特徴的な活動内容

メッセージボードの作成や秋の風景画など、毎回異なった内容に取り組むことにより、絵画に対する様々な技法を習得することができる。



【マブリング・ドリップングで絵を描こう】



【「びわこにラブレターを！」メッセージボード作成】

■ 実施に当たっての工夫

元美術教師に指導してもらうことにより、技術の向上が図れる。

竜王小学校・竜王西小学校の子どもたちが集まることにより、日々の練習を通して学区を越えた子どもたち同士の交流ができる。

■ 事業の成果

技術の向上が図れたとともに、異なった年齢同士の交流もできた。

毎回異なった内容・技法を習い、習得することにより、何事にも挑戦していく力を養うことができた。

■ 事業実施上の課題

1回ずつの講座で完結するようにしているため、休んでしまうと、その時の講座内容が学習できない。

地域の行事などが重なる日は参加者が減ってしまうので、日程調整が難しい。

参加者数の伸び悩みと子どもたちの興味を引く内容の設定が難しい。

■ その他

・子どもの声

マグカップの絵付けやメッセージボードの作成など、毎回新しいことにチャレンジできてよかった。

・保護者の声

クラブに参加してから、絵の上達はもちろんのこと、楽しんで絵を描いている姿に感激しました。

・スタッフの声

クラブを通して、友だち作りや技術の向上、絵を描くことのすばらしさを学んでいただけて本当によかったと思います。

■ 家族みんなで取り組もう！

■ 竜王町	
■ 活動名	宇宙科学クラブ
年間開催日数	11日

コーディネーター数	3人
土曜教育推進員数	10人
子どもの平均参加人数	7人

■ 活動の概要

町内の小学校に通う子どもたちが、宇宙科学クラブを通し、技能の向上はもちろんのこと、竜王小学校・竜王西小学校両校の異なる年齢の子どもたちが地域の人々との交流を深め、さらには、何事にも挑戦する勇気を育み、自らの可能性を切り拓く「生きる力」を身につける。

■ 特徴的な活動内容

天体観望や化石採集など、毎回、科学に関する異なった内容に取り組むことにより、何事にも興味を持ち、挑戦していく力を養う。



【 天体観望会 】



【 化石採集 】

■ 実施に当たっての工夫

元教師に指導してもらうことにより、技能の向上が図れる。

竜王小学校・竜王西小学校の子どもたちが集まることにより、日々の練習を通して学区を越えた子どもたち同士の交流ができる。

■ 事業の成果

技術の向上が図れたとともに、異なる年齢同士の交流もできた。

天体観望や化石採集・自然観察など科学に関する様々な体験をすることにより、何事にも興味を持ち挑戦していく力を養うことができた。

■ 事業実施上の課題

化石採集や自然観察、天体観望など1回ずつの講座の内容が異なるため、休んでしまうと、その時の講座内容が学習できない。

地域の行事などが重なる日は参加者が減ってしまうので、日程調整が難しい。

参加者数の伸び悩みと子どもたちの興味を引く内容の設定が難しい。

■ その他

・子どもの声

友だちがたくさんできた。化石採集や天体観望、科学工作など、たくさんの事が体験できてとてもよかった。

・保護者の声

化石採集では、みんな一生懸命地層を掘って、「先生、これは何の化石」と積極的に質問している姿をみて、参加させて本当によかったと思いました。

・スタッフの声

子どもの時から、宇宙・科学に関するいろんな体験をしてもらい、その体験や経験が、子どもたちがこれから生きていく上で糧となり力となれば最高です。

■ 生きる力を身につけよう！

■ 竜王町	
■ 活動名	チャレンジクラブ
年間開催日数	12日

コーディネーター数	3人
土曜教育推進員数	10人
子どもの平均参加人数	12人

■ 活動の概要

町内の小学校に通う子どもたちが、チャレンジクラブを通し、技能の向上はもちろんのこと、竜王小学校・竜王西小学校両校の異なった年齢の子どもたちが地域の人々との交流を深め、さらには、何事にも挑戦する勇気を育み、自らの可能性を切り拓く「生きる力」を身につける。

■ 特徴的な活動内容

宿泊体験や歴史ハイキング、スキー体験等を通して、自然とふれあい、自然の厳しさを学び、何事にも挑戦していく力を養った。



【 宿泊事前研修 】



【 宿泊体験 】

■ 実施に当たっての工夫

元教師に指導してもらうことにより、技能の向上が図れた。

竜王小学校・竜王西小学校の子どもたちが集まることにより、日々の練習を通して学区を越えた子どもたち同士の交流ができる。

■ 事業の成果

技術の向上が図れたとともに、異なった年齢同士の交流もできた。

宿泊体験や歴史ハイキング、スキー体験等を通して、様々な体験をすることにより、何事にも興味を持ち挑戦していく力を養うことができた。

■ 事業実施上の課題

宿泊体験など事前準備がかなり大変である。

地域の行事などが重なる日は参加者が減ってしまうので、日程調整が難しい。

参加者数の伸び悩みと、子どもたちの興味をひく内容の設定が難しい。

■ その他

・子どもの声

宿泊体験でいろんな事にチャレンジできてとても良かった。特に、カヌー体験が楽しかった。
友だちがたくさんできた。

・保護者の声

参加後、家で体験したことを笑顔で話してくれる姿に参加させてよかったと思っています。

・スタッフの声

宿泊体験では、参加者は普段の生活と少し離れ、自然の中での生きる知恵や勇気、互いの違いを認め励まし合う大切さを学ぶとともに、自然の中での活動の楽しさを体験してくれたと思います。これらの体験で得られたものは、これからの社会をたくましく生きる力となるものと確信しています。

■ 基礎から学ぼう！

■ 竜王町	
■ 活動名	
パソコンクラブ	
年間開催日数	11日

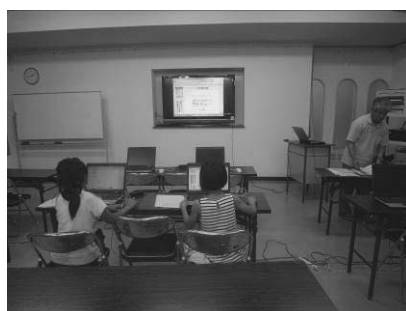
コーディネーター数	3人
土曜教育推進員数	10人
子どもの平均参加人数	5人

■ 活動の概要

町内の小学校に通う子どもたちが、パソコンクラブを通し、技能の向上はもちろんのこと、竜王小学校・竜王西小学校両校の異なる年齢の子どもたち同士が地域の人々との交流を深め、さらには、何事にも挑戦する勇気を育み、自らの可能性を切り拓く「生きる力」を身につける。

■ 特徴的な活動内容

マウス操作やタイピングなど、パソコンの基礎から取り組むことにより、何事にも興味を持ち、挑戦していく力を養う。



【マウス操作の練習】



【タイピングの練習】

■ 実施に当たっての工夫

タイピングの練習から始め、エクセル・ワードの基礎から学習する。

少人数であるため、受講生のレベルに応じた学習ができる。

竜王小学校・竜王西小学校の子どもたちが集まることにより、日々の練習を通して学区を越えた子どもたち同士の交流ができる。

■ 事業の成果

技術の向上が図れたとともに、異なる年齢同士の交流もできた。

分かるまで教えてもらうことにより、できた時の達成感を味わうことができ、何事にもあきらめない力を養うことができた。

■ 事業実施上の課題

パソコンの老朽化が進んでおり、起動するときやインターネットに接続するときに時間がかかる。

地域の行事などが重なる日は参加者が減ってしまうので、日程調整が難しい。

参加者の伸び悩みと習得したパソコン技能を発揮できる場の提供が今後の課題である。

■ その他

・子どもの声

友だちができた。はじめてから教えてもらえてよかった。

・保護者の声

家のパソコンを使ってタイピングの練習をしている姿をよくみるようになった。こんな姿を目にするたびに、このクラブに参加させてよかったと思う。

・スタッフの声

基礎から楽しみながらパソコン技能を習得してもらえてよかった。

■ 何事にも挑戦しよう！

■ 竜王町	
■ 活動名	
吹奏楽教室	
年間開催日数	43日

コーディネーター数	3人
土曜教育推進員数	10人
子どもの平均参加人数	18人

■ 活動の概要

町内の小学校に通う子どもたちが、吹奏楽を通し、技能の向上はもちろんのこと、竜王小学校・竜王西小学校両校の異なった年齢の子どもたち同士が発表会等により地域の人々との交流を深め、さらには、何事にも挑戦する勇気を育み、自らの可能性を切り拓く「生きる力」を身につける。

■ 特徴的な活動内容

県の大会や町イベント等に積極的に参加し、演奏を成功させることにより、何事にも挑戦し、自らの可能性を切り拓く「きっかけ」作りを行う。



【竜王町文化きらめきフェア】



【滋賀県ジュニアミュージックフェスティバル】

■ 実施に当たっての工夫

毎週土曜日の夜にすることにより、受講生の地域行事などと比較的重なることなく開講することができる。
指導者を3名にすることにより、分からないところはじっくりと教えてもらうことができる。
日々の練習を通して、異なった年齢の子どもたち同士の交流ができる。

■ 事業の成果

技術の向上が図れたとともに、異なった年齢同士の交流もできた。
県の大会や町イベントに出演し、演奏を重ねることによって何事にも挑戦していく力を養うことができた。

■ 事業実施上の課題

受講生はそれぞれ担当する楽器が決まっており、欠席者があると練習に支障が出ることがある。

■ その他

・子どもの声

始めは、全然演奏できなかったけど、一生懸命練習して、今では大会で演奏できるほど上達しました。
友だちがたくさんできた。たくさんの曲が演奏できるようになった。

・保護者の声

発表会でわが子の演奏を聴き、その上達ぶりに驚かされました。
吹奏楽に一生懸命に取り組んでいる子どもの姿を見て、うれしい気持ちとクラブに参加させてよかったと本当に思いました。

・スタッフの声

練習の成果が演奏会や発表会で発揮でき、また、子どもたちの達成感で満ち溢れた笑顔を見るたびに、子どもたちの成長を実感し、この経験が、将来道に迷ったときに、乗り切るための糧となれば幸いです。

多賀町における土曜日の教育支援の取組

めざす姿

地域の大人と子どもたちがふれあうことにより、お互いが顔見知りとなり、町全体が安全で安心な空間になるように努めていく。大人と子どもが共に活動することで、大人は、自分の持っている知識や経験を子どもたちに伝え、子どもたちは大人から地域の歴史や伝統を学び、次世代に受け継ぐことをめざす。

本年度の活動

多賀町地域教育力推進協議会という運営委員会を活用し、子どもの体験活動や土曜日の時間の過ごし方に関する検討を行い、また、地域と学校が互いに連携できるように取組みを進めている。

本年度の成果

多賀町地域教育力推進協議会において、地域の方にお手伝いをいただき、陶芸教室の事業を実施できるよう調整ができた。

今後の課題

学習や教室の補助員として大学生などのボランティアの起用を考えているが、町内には大学もなく難しい。今後は、近隣の大学との連携を模索していく必要がある。

その他

多賀町地域教育力推進協議会

開催数：年10回

委員数：26名

【会議の様子】

団体	多賀町PTA連絡協議会	企業	多賀町商工会
	多賀町子ども会指導者連絡協議会		J A 東びわこ農業協同組合多賀支店
	多賀町青少年育成町民会議		麒麟ビール株式会社滋賀工場
	近江猿楽多賀座		中日本エクシス株式会社 EXPASA 多賀
	多賀町分館連絡協議会		株式会社ブリヂストン彦根工場
	子育て支援サークル「たんぽぽ」	学校	多賀中学校
	子育てサークル「パオパオ」		多賀小学校
	多賀幼稚園保護者サークル「ぶらんこ」		大滝小学校
	D ドラファミリー	行政	教育委員会学校教育課
	サークル「わかくさ」		多賀町中央公民館
	グループ「SKO」		あけぼのパーク多賀
	多賀クラブ		産業環境課
	特定非営利活動法人「多賀やまびこクラブ」		多賀町子ども・家庭応援センター



■ みなさんのやる気を応援します！ 土曜講座（サタスタ）

■ 多賀町	
■ 活動名	土曜講座（サタスタ）
年間開催日数	20日（3年生は17日）

コーディネーター数	1 人
土曜教育推進員数	3 人
子どもの平均参加人数	35 人

■ 活動の概要

「もっと勉強をがんばりたい」「苦手な教科がわかるようになりたい」と思っている中学生を応援し、学ぶ楽しさ、わかる喜びを味わい、自信をもって将来の目標に向かって頑張ることができる人間に成長することを活動の目的とする。

■ 特徴的な活動内容

中学校の年間指導計画に基づき、塾講師による一斉授業で、国語・数学・英語の3教科の学習を復習を中心に50分間ずつ行う。

■ 実施に当たっての工夫

中学校の年間指導計画と連携し、継続して学習を効率よく行い、確実に力をつけられるよう日程調整に工夫をした。また、学校行事や部活動との調整を行った。

■ 事業の成果

事業終了後にアンケートを取り、今後の実施に向けての指標とするが、昨年度では学校でわからなかったことがわかったことや、サタスタで勉強をがんばるきっかけになったことなどの成果があった。中学生では部活があることから調整してほしいことや、4月からも実施してほしい、勉強する機会を確保できてよかった等の意見があった。

■ 事業実施上の課題

受講生の日程と講師の日程および会場（3会場）の調整が噛み合わないため講座の実施ができないため、土曜講座主体で日程調整しているため、参加できない生徒もあること。

■ その他

台風やインフルエンザの流行など、緊急時の連絡方法について連絡網の確保が必要である。また、各回ごとに宿題が出るためこれについての連絡体制の確保も必要となる。

受講者がお互いに気持ち良く学習ができるよう、事前に受講者および保護者に連絡事項・注意事項をお知らせするチラシを配布した。



【3年生の受講風景】



【開講式後の受講風景】

■ 陶芸体験で、すてきな体験づくりのお手伝い

■ 多賀町	
■ 活動名	
子ども陶芸教室	
年間開催日数	10日

コーディネーター数	1人
子どもの平均参加人数	16人/回
開始年度	平成元年度

■ 活動の概要

普段なかなか体験できない陶芸を通じ、芸術的感性を磨く。

■ 特徴的な活動内容

- ・単なる置き物作りではなく、子ども達が自分で作った作品を実際に使えるような内容を選び実施している。
(例：皿、お茶碗、小物入れ、ランプシェード等)
- ・今年度は自分で作った器を使い、流しそうめんを実施した。例年は煮沸消毒の方法を書いた紙を保護者宛てに配布しているが、今年度は流しそうめんの前に作品の煮沸消毒の仕方を子ども達が学び、実際に体験した。
- ・年2回の作品展の実施

■ 実施に当たっての工夫

- ・ひとつの作品を作るために長期間必要なため、中途半端な作業で終わらないよう時間配分、年間のスケジュール調整。

■ 事業の成果

- ・勉強ではない活動に取り組む事で長時間の集中力、持続力が養われた。
- ・学校では落ち着きのない受講生が、陶芸教室では三時間休みなしに作品作りに取り組む姿が見られる。
- ・青少年育成大会・町民のつどいに合わせ、公民館ロビーに作品と活動紹介のポスターを作成、展示。町民の皆さんに広く見て頂き「雰囲気が和む、ロビーが明るく見える」等の声を頂いた。活動紹介のポスターを見た親子からは来年度の活動に参加したいが募集はいつするのか等の問い合わせもあった。

■ 事業実施上の課題

- ・内容のマンネリ化
- ・ボランティアの確保
- ・陶芸窯の老朽化による修繕と維持

■ その他

- ・対象が小学3年生以上のため、1、2年生の親子を対象に親子陶芸教室を実施。3年生になったら子ども陶芸教室に参加したいとの声もあり、継続して実施することで、受講生の確保に繋がる。



【みんなで植木鉢作り】



【自分たちで作った器でいただきまーす】